

2023.12.5

横浜市会講演資料
(郊外部再生・活性化特別委員会)

郊外部における持続可能な社会の 実現に向けた取組について

相鉄ホールディングス株式会社
経営戦略室 事業創造担当 坂入豊

1. はじめに（相鉄グループについて）

2. 相鉄グループを取り巻く環境【課題認識】

3. 課題解決に向けた対策

① 都心への利便性向上

- ・ JR・東急との相互直通運転開始

② ブランド戦略

- ・ デザインアッププロジェクト
- ・ 名店プロジェクト

③ 沿線開発戦略

- ・ 6大プロジェクト（開発済・開発中・その先）
- ・ 公民学連携

④ 目指す沿線の理想像

- ・ SDGsへの取り組み
- ・ 次の時代に向けた取り組み

4. 最後に



1. はじめに（相鉄グループについて）

2. 相鉄グループを取り巻く環境【課題認識】

3. 課題解決に向けた対策

① 都心への利便性向上

- ・ JR・東急との相互直通運転開始

② ブランド戦略

- ・ デザインアッププロジェクト
- ・ 名店プロジェクト

③ 沿線開発戦略

- ・ 6大プロジェクト（開発済・開発中・その先）
- ・ 公民学連携

④ 目指す沿線の理想像

- ・ SDGsへの取り組み
- ・ 次の時代に向けた取り組み

4. 最後に



➤ 会社概要

会社名	相鉄ホールディングス株式会社
創立	1917年(大正6年)12月18日
本社	〒220-0004 横浜市西区北幸2-9-14
資本金	388億円
株式市場	東京証券取引所 プライム（コード：9003）
代表者	代表取締役社長 滝澤 秀之
グループ社員数*	4,975人（2023年3月31日現在）

* 臨時雇用除く

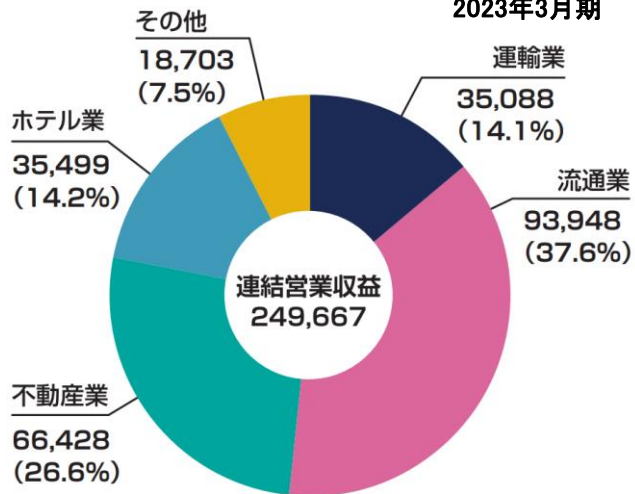
➤ 沿革

- 1917年12月18日 … 創立
- 2009年9月 … 鉄道事業を分社、相模鉄道は「相鉄ホールディングス」に商号を変更
- 2010年10月 … 自動車(バス)事業を分社
⇒相鉄ホールディングスは純粋持株会社体制へ
- 2017年12月 … 相鉄グループ創立100周年

1. はじめに (セグメント情報)

● 事業別営業収益割合 (百万円)

2023年3月期



※ セグメント間の取引消去後の金額

運輸業

➤ 鉄道業

横浜と県央部をスピーディーに結ぶ都市型鉄道。



➤ バス事業

横浜市内と神奈川県県央部を中心に地域の足として、乗合バスを運行。



流通業

スーパーマーケット「そうてつローゼン」やコンビニエンスストア、駅の売店などを展開。



不動産業

➤ 分譲業

マンション、戸建住宅を開発・分譲。

➤ 賃貸業

商業施設やオフィスビルを開発・運営



ホテル業

首都圏や関西圏を中心に宿泊を主体とした宿泊特化型ホテルや、フルサービスホテルの開発・運営を行う。



その他

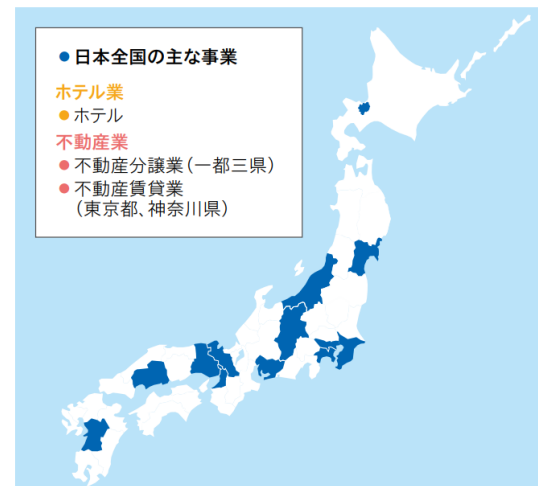
建物の管理・メンテナンス業などを展開。



1. はじめに (事業エリア)

相鉄線沿線は、横浜駅を基点に神奈川県県央に向かう鉄道路線を中心に、まちづくりと商業施設の開発を推進。現在は、沿線だけではなく、国内外で事業を展開。

➤ 沿線・沿線近隣地域



※一部、グループ外との共同所有施設を含む

基本理念

選ばれる沿線の創造

グループ内外の基盤・リソースやデジタル技術を最大限に活用し、顧客・地域社会の課題を解決する

<目指す沿線の理想像>

- ・「多様な価値観」×「ボーダーレス」
 - 世代間・異文化とのつながりを通じた共創
- ・「サステナブル」な街づくり/暮らしの提供

イノベティブ

サステナブル

ウェルビーイング

人生100年時代を“生き活きと”過ごせる沿線

事業領域の拡大

- ・ 自社沿線で構築したプラットフォームの強みを活かし、沿線外・海外への横展開を目指す
- ・ 個々の事業においても沿線外・海外への進出に積極的に取り組むとともに、そこで得たノウハウを沿線内に還元する

盤石な事業基盤の構築

- ・ 既存事業での「構造改革の断行」と「稼ぐ力の強化」
- ・ グループ総合力の最大化
- ・ サステナビリティの追求

沿線内におけるグループの
タッチポイント拡大を通じた
長期的な価値向上の実現

“With”

- “向き合う”
- “寄り添う” / “共に高めあう”
- “つなげる”

社会環境・社会課題

人口減少
長寿社会

デジタル化
グローバル化

気候変動
ESG/SDGs



With
コロナ



● 社会環境の変化・課題に“向き合う”

- ✓ 社会・地域の環境変化を積極的に「機会」と捉え、これまで以上にお客さまや沿線住民の課題解決に取り組む

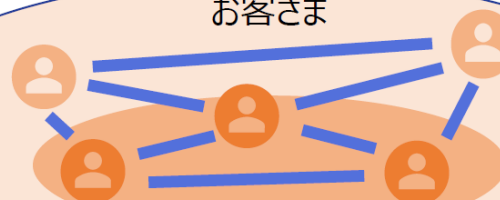
パートナー



相鉄グループ



お客さま



沿線住民

● お客さまや沿線住民に“寄り添う” / ステークホルダーと“共に高めあう”

- ✓ 沿線住民は より良い街を、お客さまは より良い社会と一緒に作り上げる大切な「パートナー」
- ✓ 提携先やスタートアップ企業は「共創」を図るための欠かせないステークホルダー

● お客さまや沿線住民の多様な価値を“つなげる”

- ✓ 相鉄グループは人と人を繋げることで個人や社会の成長を支える「プラットフォーム」

「相鉄グループ長期ビジョン“Vision2030” 及び中期経営計画 (2022年度～2024年度)」2021年11月25日開示資料より

事業基盤の拡充

既存領域の強化と再構築

1. 既存事業における
「構造改革の断行」と
新たな「稼ぐ力の強化」

3. 「選ばれる沿線」の創造

成長の加速・新たな領域への挑戦

2. 収益の柱としての
「不動産事業の
抜本的な強化」

4. 沿線外・海外への展開拡充と
新たな事業領域への拡大

経営基盤の強化

5. グループベースでの
人財/DX/組織・経営管理
の整備・強化

6. ESG/SDGsへの
取り組み強化

「相鉄グループ長期ビジョン“Vision2030”及び中期経営計画（2022年度～2024年度）」2021年11月25日開示資料より

1. はじめに（相鉄グループについて）

2. 相鉄グループを取り巻く環境【課題認識】

3. 課題解決に向けた対策

① 都心への利便性向上

- ・ JR・東急との相互直通運転開始

② ブランド戦略

- ・ デザインアッププロジェクト
- ・ 名店プロジェクト

③ 沿線開発戦略

- ・ 6大プロジェクト（開発済・開発中・その先）
- ・ 公民学連携

④ 目指す沿線の理想像

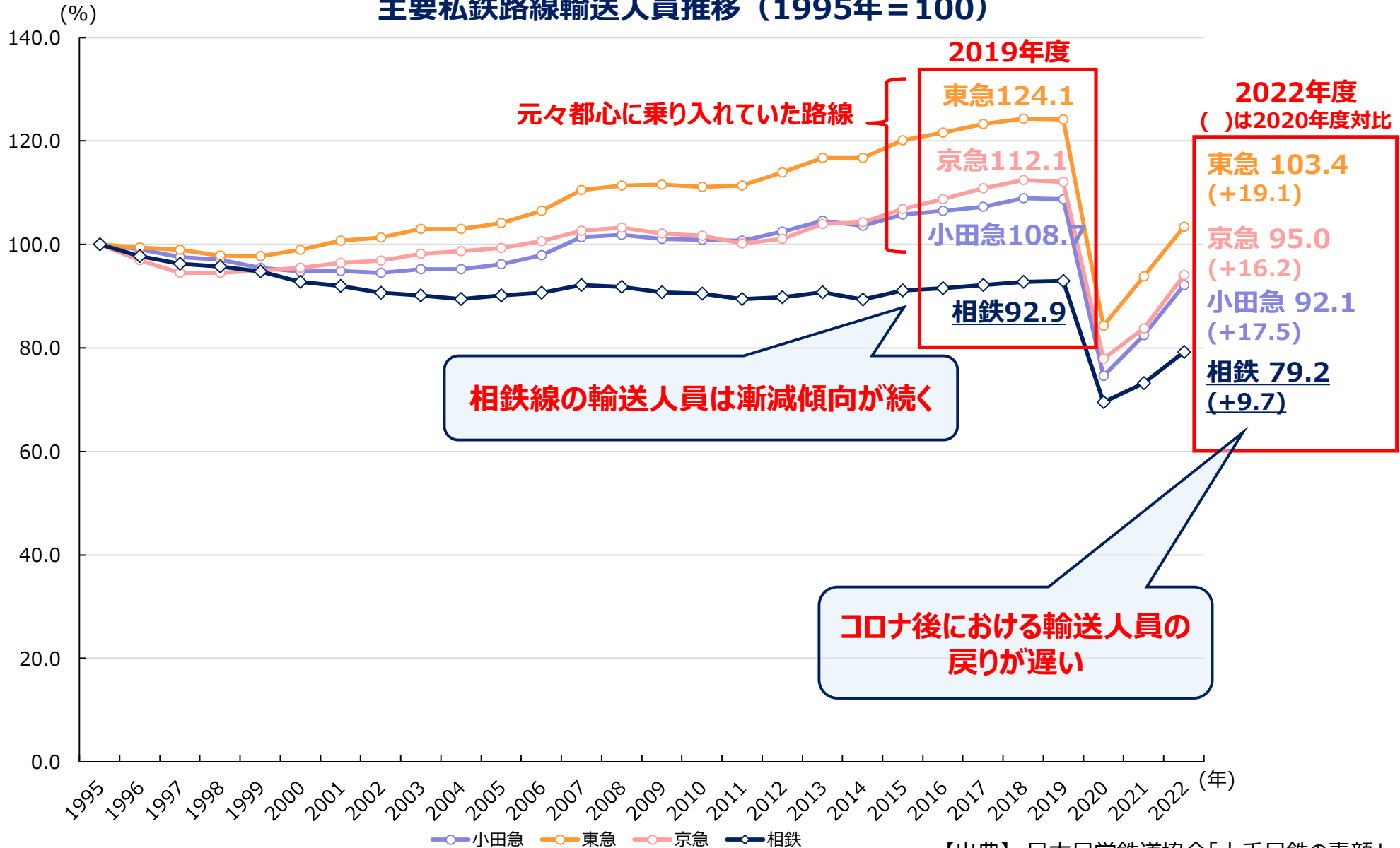
- ・ SDGsへの取り組み
- ・ 次の時代に向けた取り組み

4. 最後に



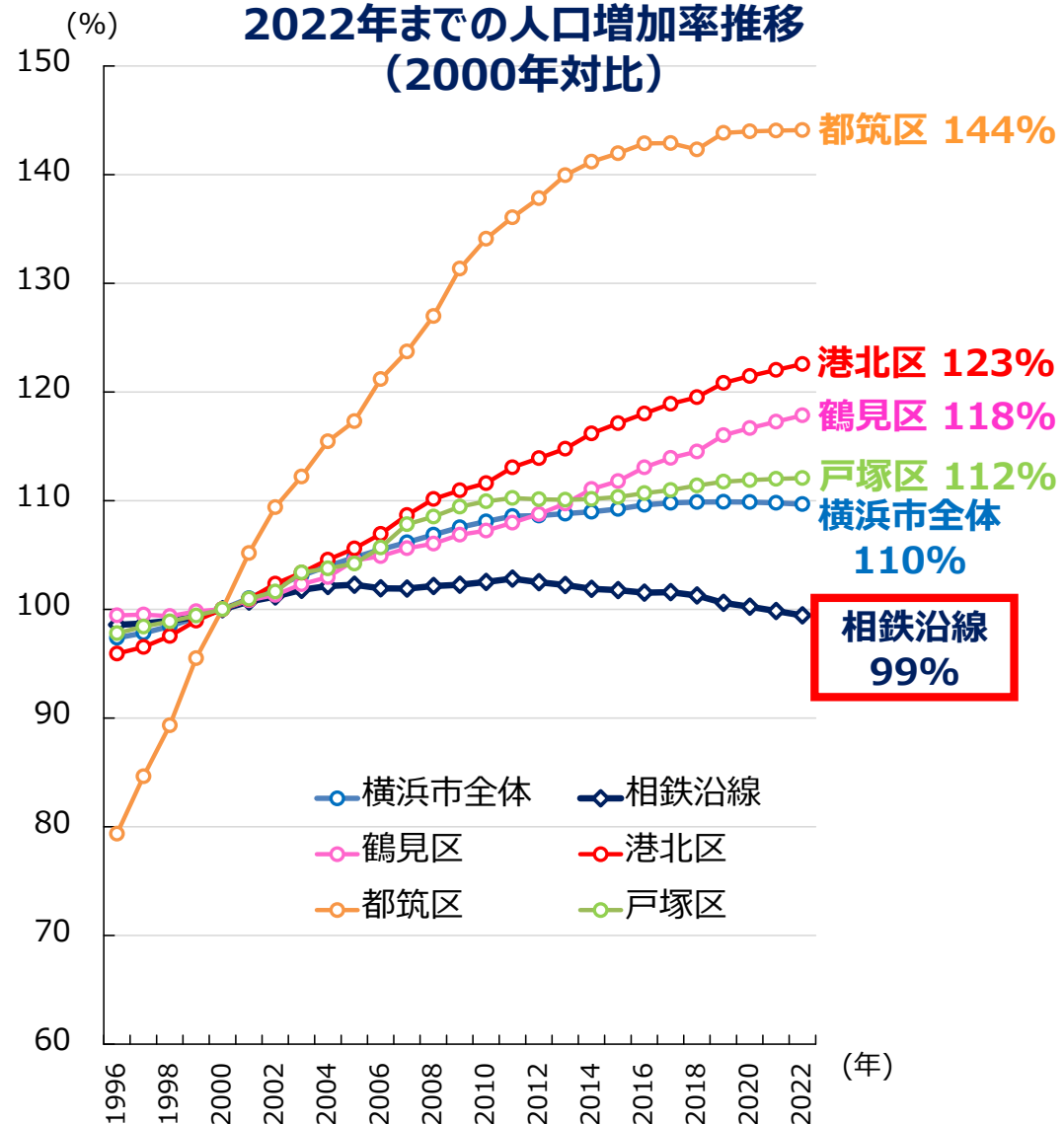
2. 相鉄グループを取り巻く環境（他社線との輸送人員推移比較）

主要私鉄路線輸送人員推移（1995年 = 100）



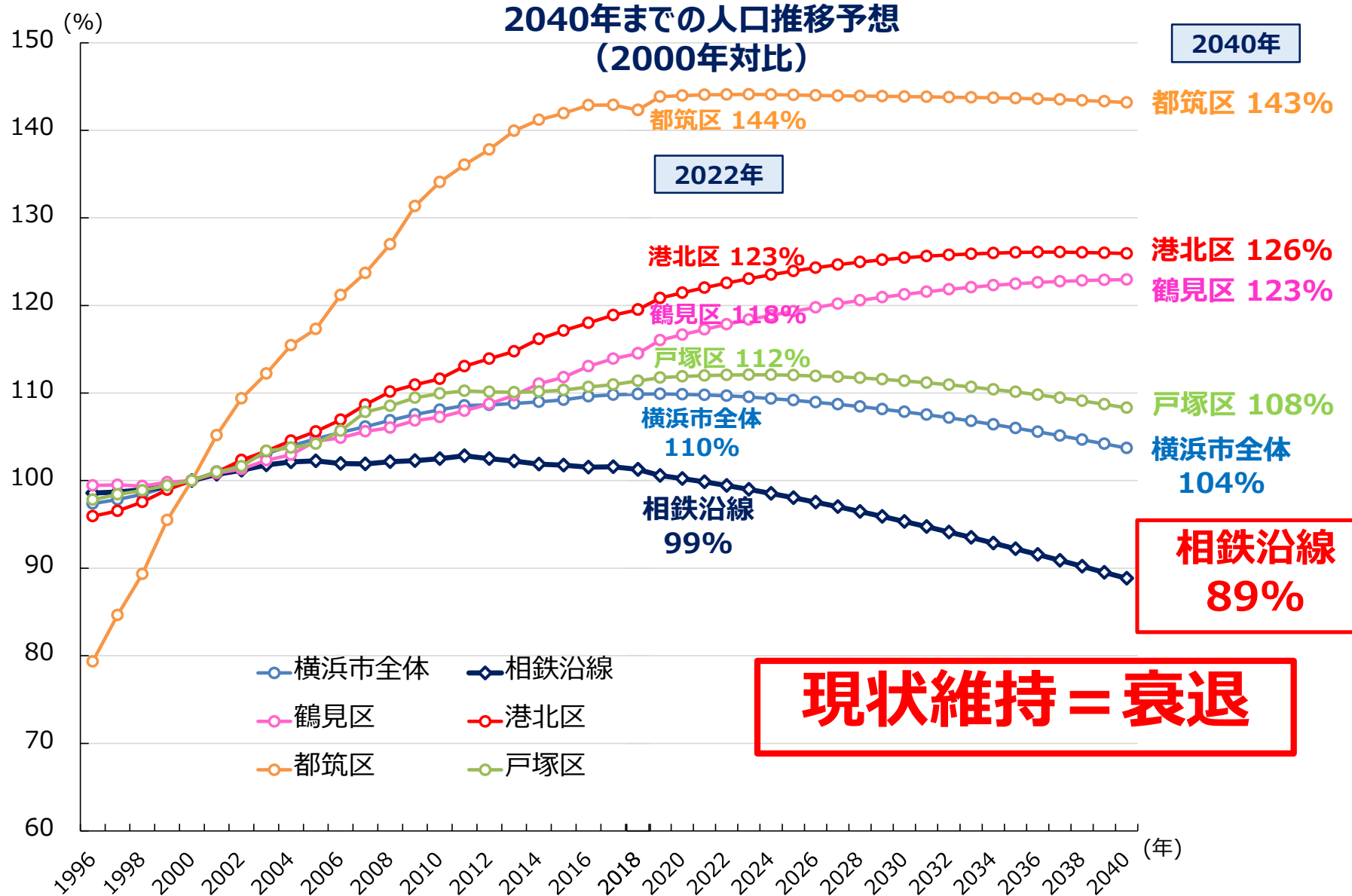
【出典】日本民営鉄道協会「大手民鉄の素顔」

2. 相鉄グループを取り巻く環境（横浜市各区の人口増加率の比較）



【出典】 横浜市統計情報ポータル (人口)

2. 相鉄グループを取り巻く環境（横浜市沿線各区の人口推移）



【出典】 横浜市統計情報ポータル (将来人口推計)

2. 相鉄グループを取り巻く環境（相鉄線の認知度調査）

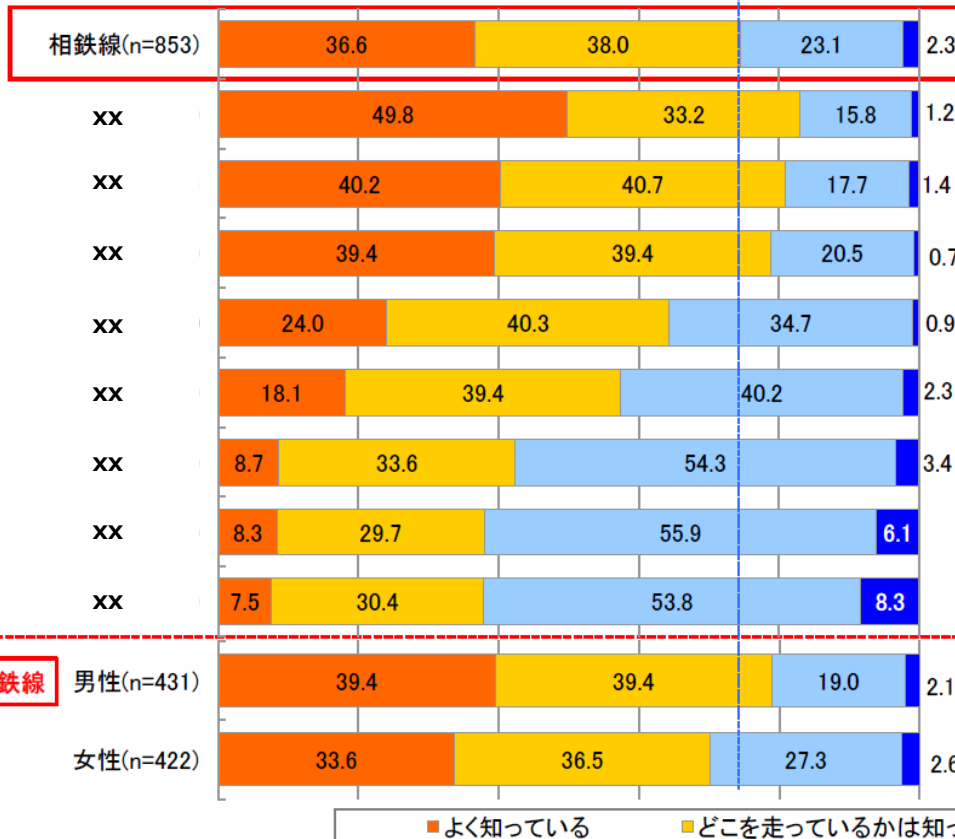
2018年度の各路線の認知度（神奈川県／東京都・男女別）【JR相互直通前】

- ・ 神奈川県における相鉄線の認知度は**74.6%**（「良く知っている」+「どこを走っているかは知っている」）。
- ・ 一方、東京都における相鉄線の認知度は**30.9%**に留まっている。
- ・ 東京方面の認知度を高めていかない限り、東京からの住み替えは難しい状況。

「よく知っている」+「どこを走っているかは知っている」層で降順

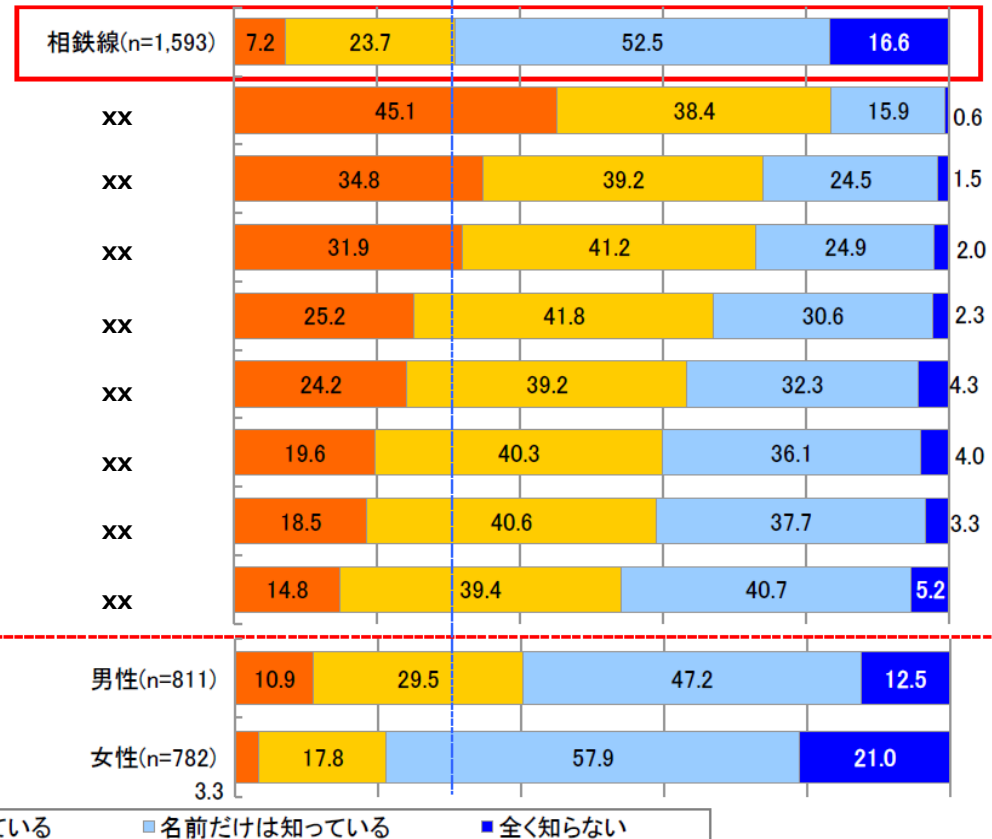
神奈川県居住者の認知度

74.6%



東京都居住者の認知度

30.9%



【出典】 2018年度相鉄線認知度・好意度調査

2. 相鉄グループを取り巻く環境（相鉄線の好意度調査）

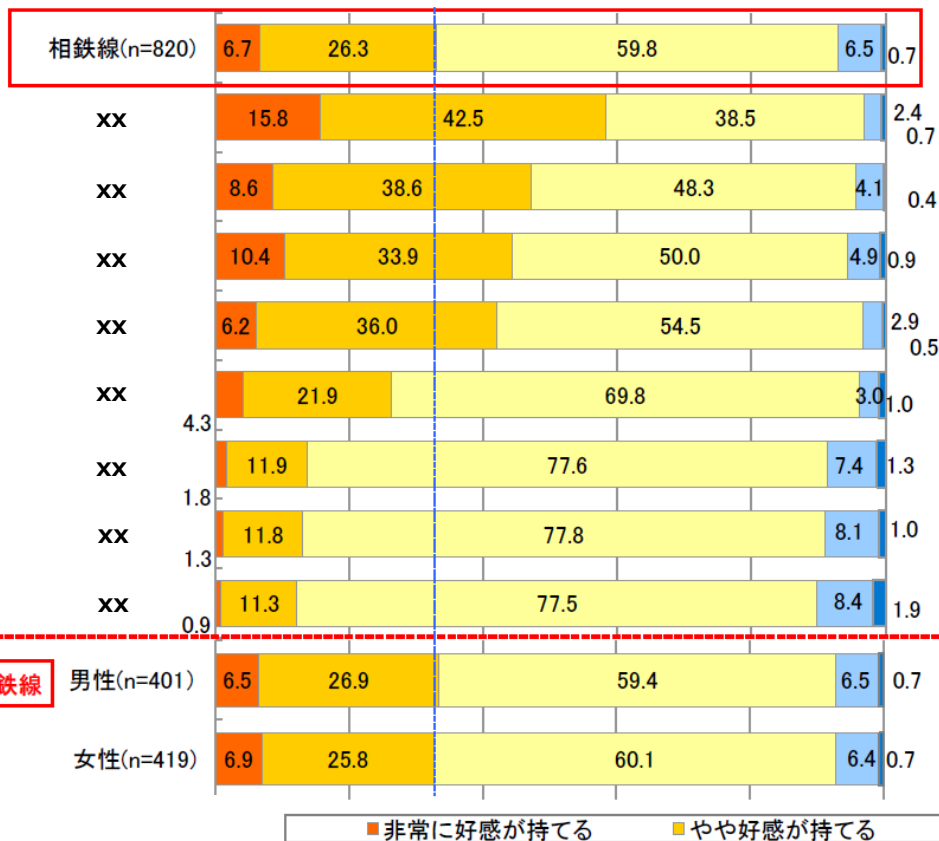
2018年度の各路線の好意度（神奈川県／東京都・男女別）【JR相互直通前】

- ・ 神奈川県における相鉄線の好意度は**33.0%**（「非常に好感が持てる」+「やや好感が持てる」）。
- ・ 一方、東京都における相鉄線の好意度は**13.9%**に留まっている。
- ・ 東京方面の好感度を高めていかない限り、東京からの住み替えは難しい状況。

※認知度の設問で「よく知っている」「どこを走っているかは知っている」「名前だけは知っている」と回答者の好意度
相鉄線を除き「好意度」で降順

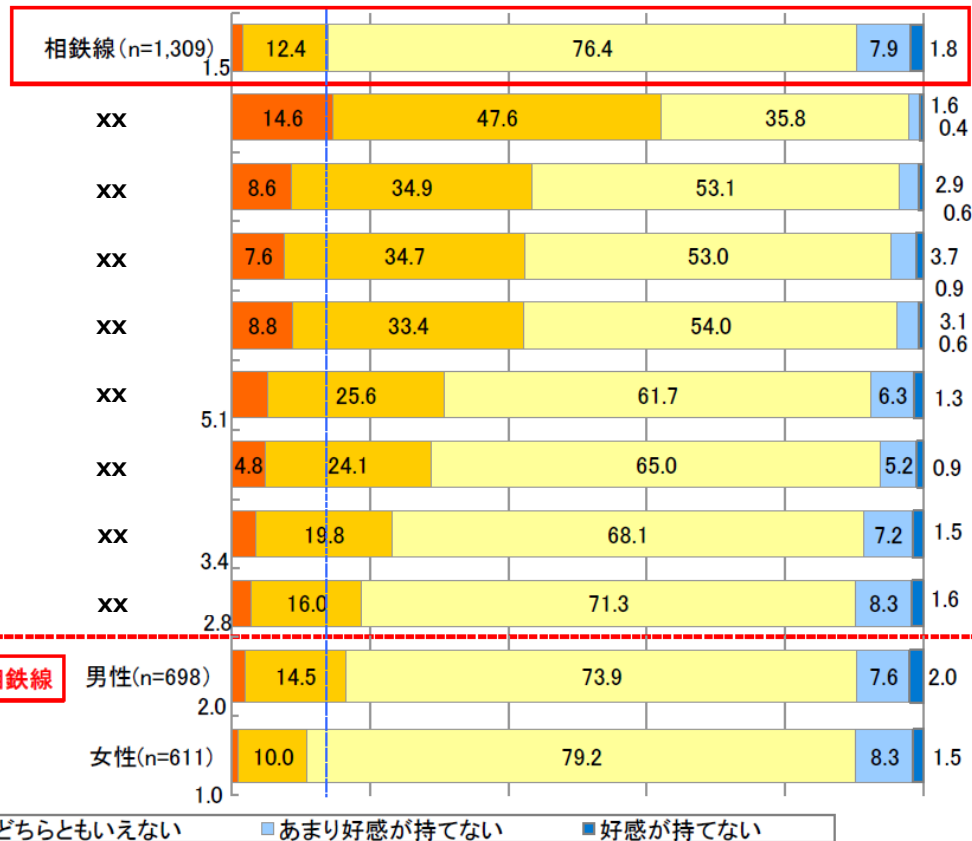
神奈川県居住者の好意度

33.0%



東京都居住者の好意度

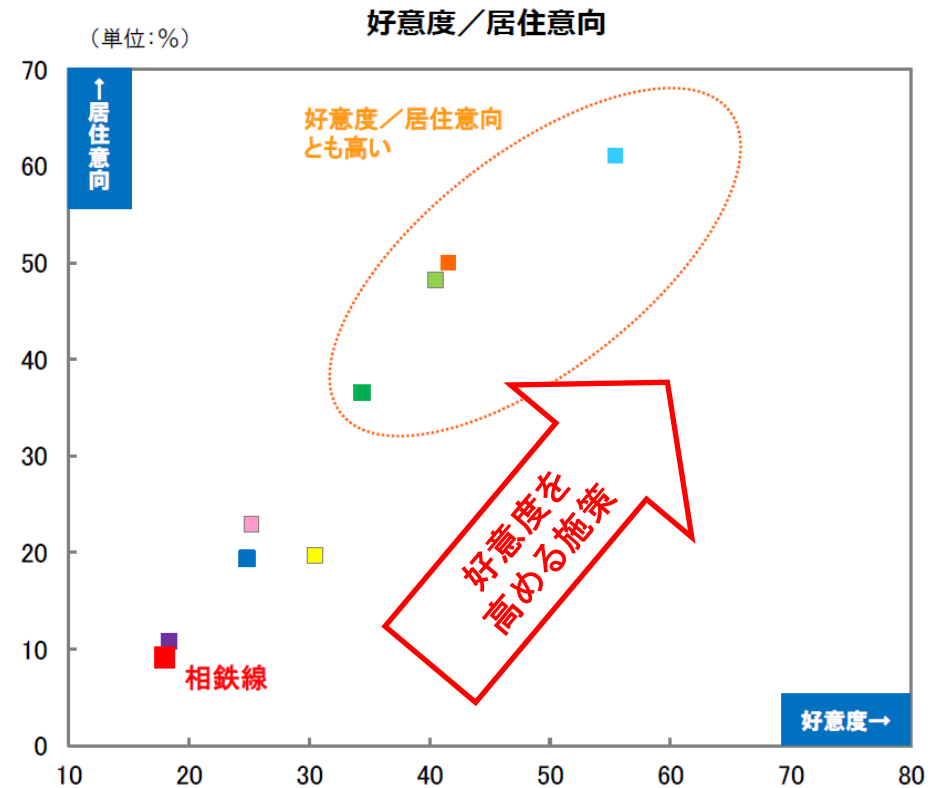
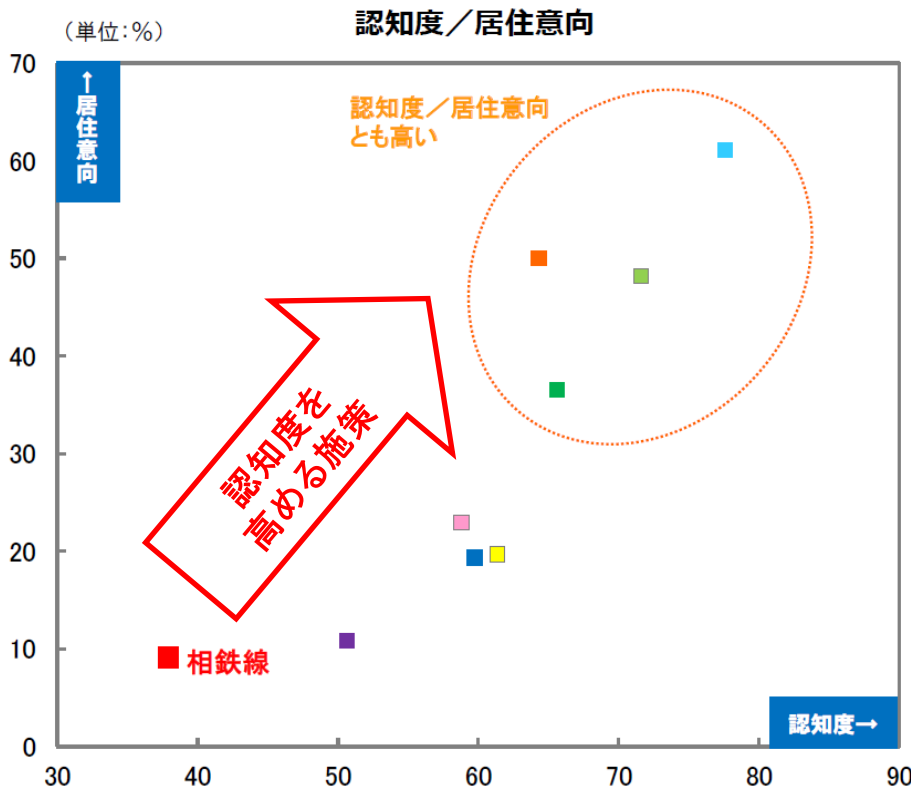
13.9%



【出典】 2018年度相鉄線認知度・好意度調査

認知度／好意度と居住意向の関係

- 認知度／居住意向の関係では、概ね認知度が高くなるほど、居住意向が高くなる傾向
 - 好意度／居住意向も同様に好意度が高まると居住意向が高まる
 - 相鉄線は現在、認知度／好意度が低いことから、居住意向が低い状況
- ➔ **認知度／好意度を高めることが重要！**



※認知度の問題で「よく知っている」「どこを走っているかは知っている」「名前だけは知っている」と回答者の好意度
 ※グラフが煩雑になるため、対象者数は省略した。京成線はサンプル数が少ないため、注意が必要

2. 相鉄グループを取り巻く環境（まとめ）

課題の整理

- ・相鉄線は**都心までの時間・距離が他社線に比べて長い**。
- ・相鉄線沿線の人口トレンドは、横浜市内でも、**減少傾向**にある。
- ・相鉄線沿線は神奈川県内では一定の認知はされているが、**都内の認知は低い**。
- ・相鉄線沿線の**居留意向**は、**他社比低い水準**である。

対 策

- | | | |
|----------------------|------------------------------|---------------|
| ① 都心との時間距離の短縮 | ⇒ 都心直通プロジェクトの実施 | 都心への
利便性向上 |
| ② 相鉄線沿線のイメージアップ | ⇒ 相鉄グループのブランド戦略 | ブランド戦略 |
| ③ 沿線内の利便性・価値の向上 | ⇒ 相鉄線沿線 6 大プロジェクト
公民学の連携 | 沿線開発戦略 |
| ④ 顧客・地域社会の課題解決への取り組み | ⇒ SDGsへの取り組み
次の時代に向けた取り組み | 目指す沿線の
理想像 |

1. はじめに（相鉄グループについて）

2. 相鉄グループを取り巻く環境【課題認識】

3. 課題解決に向けた対策

① 都心への利便性向上

- ・ JR・東急との相互直通運転開始

② ブランド戦略

- ・ デザインアッププロジェクト
- ・ 名店プロジェクト

③ 沿線開発戦略

- ・ 6大プロジェクト（開発済・開発中・その先）
- ・ 公民学連携

④ 目指す沿線の理想像

- ・ SDGsへの取り組み
- ・ 次の時代に向けた取り組み



4. 最後に

3. ①都心への利便性向上（時間距離短縮）

- ・ 神奈川東部方面線計画をもとに、JR・東急との相互直通運転を国土交通省の補助事業として事業化。
- ・ 都心へのアクセスが飛躍的に向上し、新幹線停車駅の新横浜や、横浜国立大学までのアクセスも大幅に向上。

相鉄・東急直通線 (2023年3月18日開業)

二俣川～目黒 ※16分程度短縮
現行54分（乗換2回）⇒ 直通後 38分（乗換なし）
朝ラッシュ時 10～14本/時
その他時間帯 4～6本/時

新型車両20000系



新型車両12000系

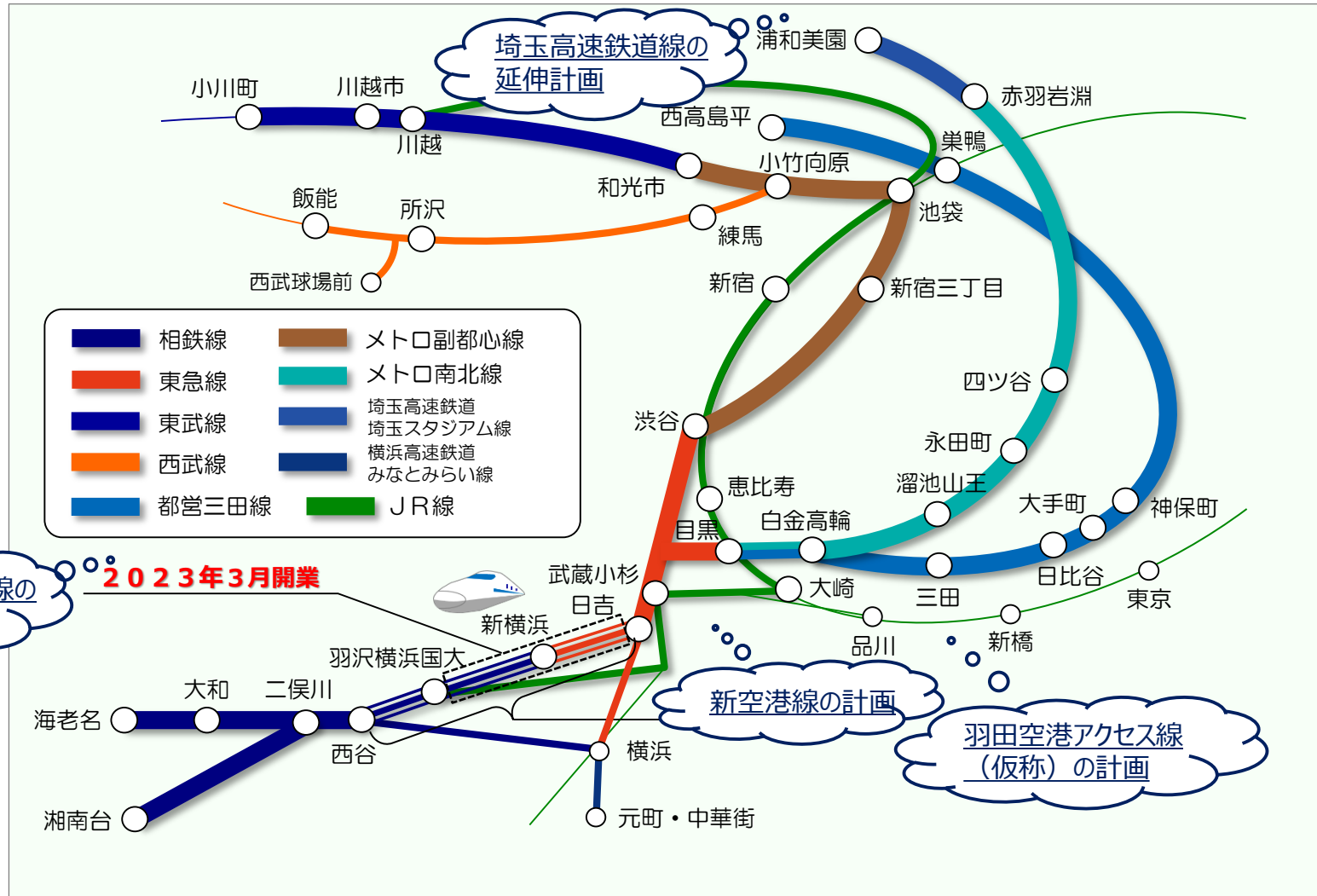
相鉄・JR直通線

(2019年11月30日開業)

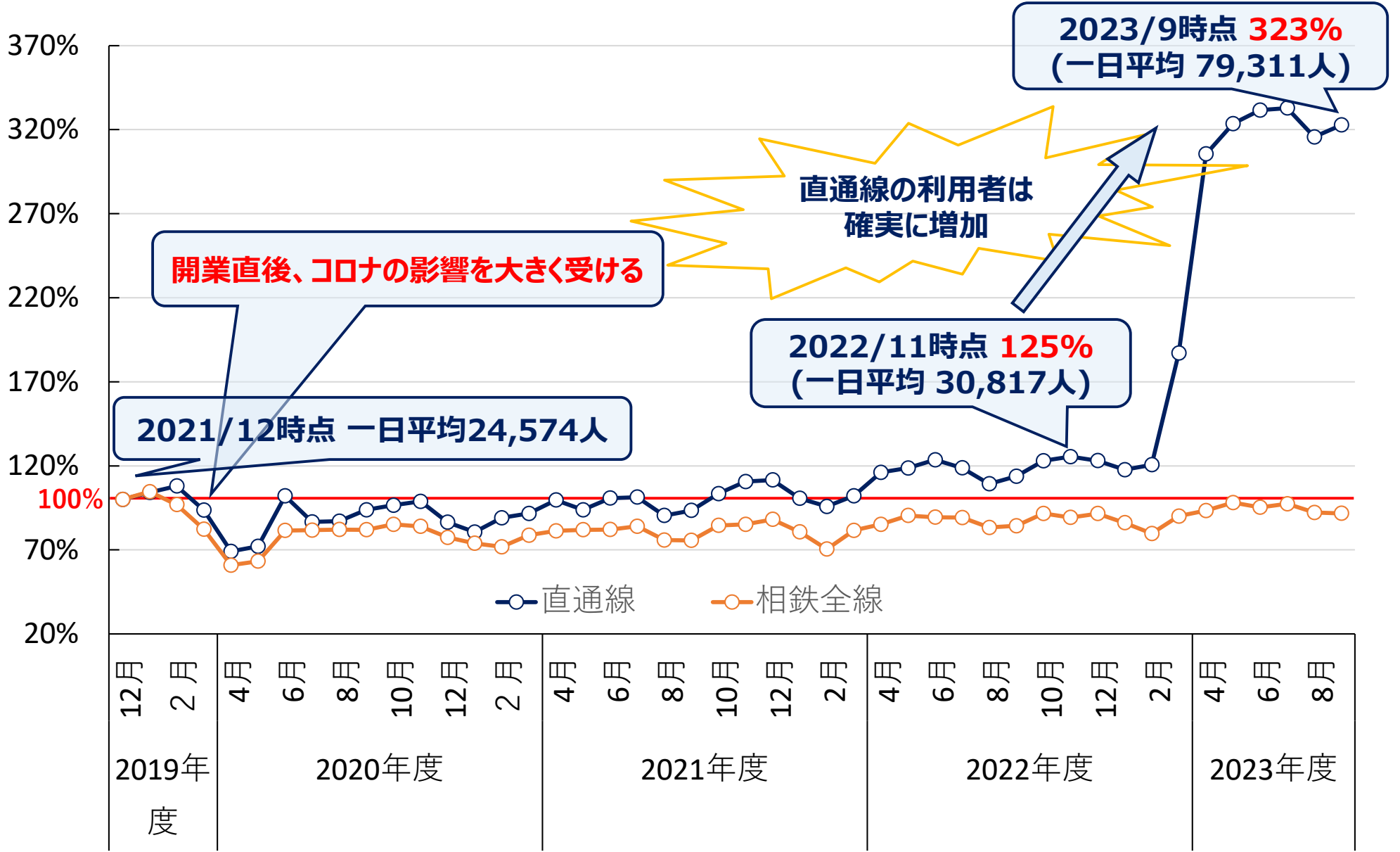
二俣川～新宿 ※15分程度短縮
現行59分（乗換1回）⇒ 直通後 44分（乗換なし）
朝ラッシュ時 4本/時
その他時間帯 2本/時

3. ①都心への利便性向上（ネットワークの強化）

東急との相互直通運転は、東急東横線・目黒線に接続し、東京メトロ南北線・副都心線・都営三田線、埼玉高速埼玉スタジアム線、東武東上線と直通運転を実施。今後も他社線との相互乗り入れ拡大を長期的に追求し、広域ネットワークのさらなる強化に向け検討していく。



3. ① 都心への利便性向上 (JR及び東急直通線の利用状況の推移)



相模鉄道「JR・東急直通利用状況」より

1. はじめに（相鉄グループについて）
2. 相鉄グループを取り巻く環境【課題認識】

3. 課題解決に向けた対策

① 都心への利便性向上

- ・ JR・東急との相互直通運転開始

② ブランド戦略

- ・ デザインアッププロジェクト
- ・ 名店プロジェクト

③ 沿線開発戦略

- ・ 6大プロジェクト（開発済・開発中・その先）
- ・ 公民学連携

④ 目指す沿線の理想像

- ・ SDGsへの取り組み
- ・ 次の時代に向けた取り組み



4. 最後に

「相鉄デザインブランドアッププロジェクト」の推進

■ トータルイメージコンセプト（総合デザイン監修「水野 学」氏、「洪恒夫」氏）

- 目先のトレンドに左右されない
「古くならないデザイン」
「普遍的な色」
- 古くなるのではなく、
積み重なり「醸成」する鉄道



相鉄線沿線ブランドアップ戦略の推進

創立
100周年

JR線・東急線
相互直通運転

相互直通運転を見据えたブランドアップ戦略

- **ヨコハマネイビーブルー**の新塗装車両
- 車両・駅舎・制服も含めたりニューアル



➤ 制服



英国スコットランド製の本革を
採用した4人掛けシート

3. ②ブランド戦略（名店プロジェクト）

- ・「相鉄沿線名店プロジェクト」は沿線のブランド価値の向上を推進する取り組みのひとつ
- ・「地産地消」など地域に根ざした「こだわり」を持った地元の名店を紹介
- ・相鉄グループが新たな名店を誘致

レストラン ペタル ドゥ サクラ
（弥生台）



中国料理「真龍（ツェンロン）～ZHENRON～」
（南万騎が原）



酒と板そば ともしび（緑園都市）



和食「蒼 -aoi-」（弥生台）



1. はじめに（相鉄グループについて）

2. 相鉄グループを取り巻く環境【課題認識】

3. 課題解決に向けた対策

① 都心への利便性向上

- ・ JR・東急との相互直通運転開始

② ブランド戦略

- ・ デザインアッププロジェクト
- ・ 名店プロジェクト

③ 沿線開発戦略

- ・ 6大プロジェクト（開発済・開発中・その先）
- ・ 公民学連携

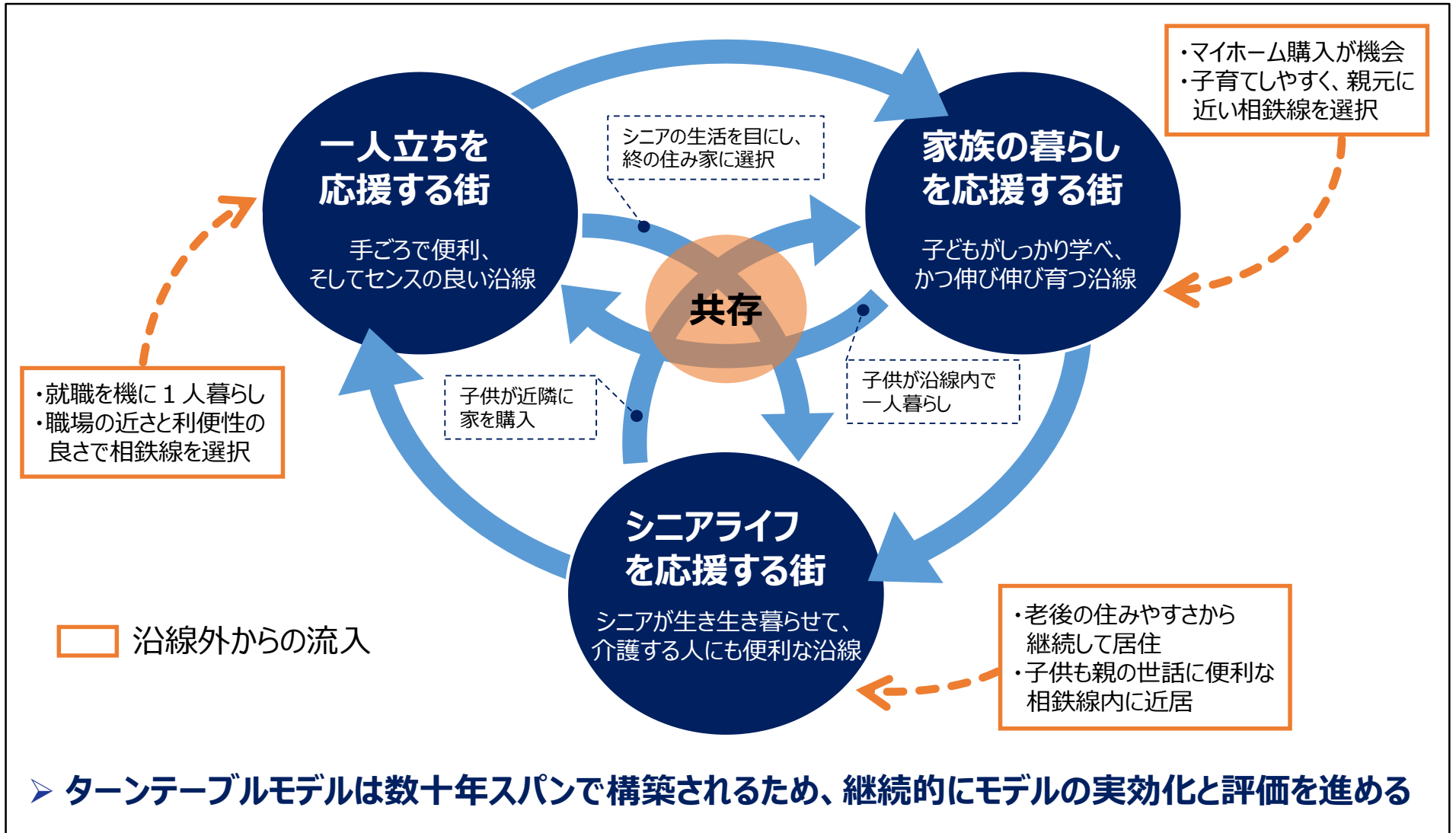
④ 目指す沿線の理想像

- ・ SDGsへの取り組み
- ・ 次の時代に向けた取り組み



4. 最後に

人々が、相鉄線沿線の街の魅力と縁によって循環する＝“ターンテーブルモデル”

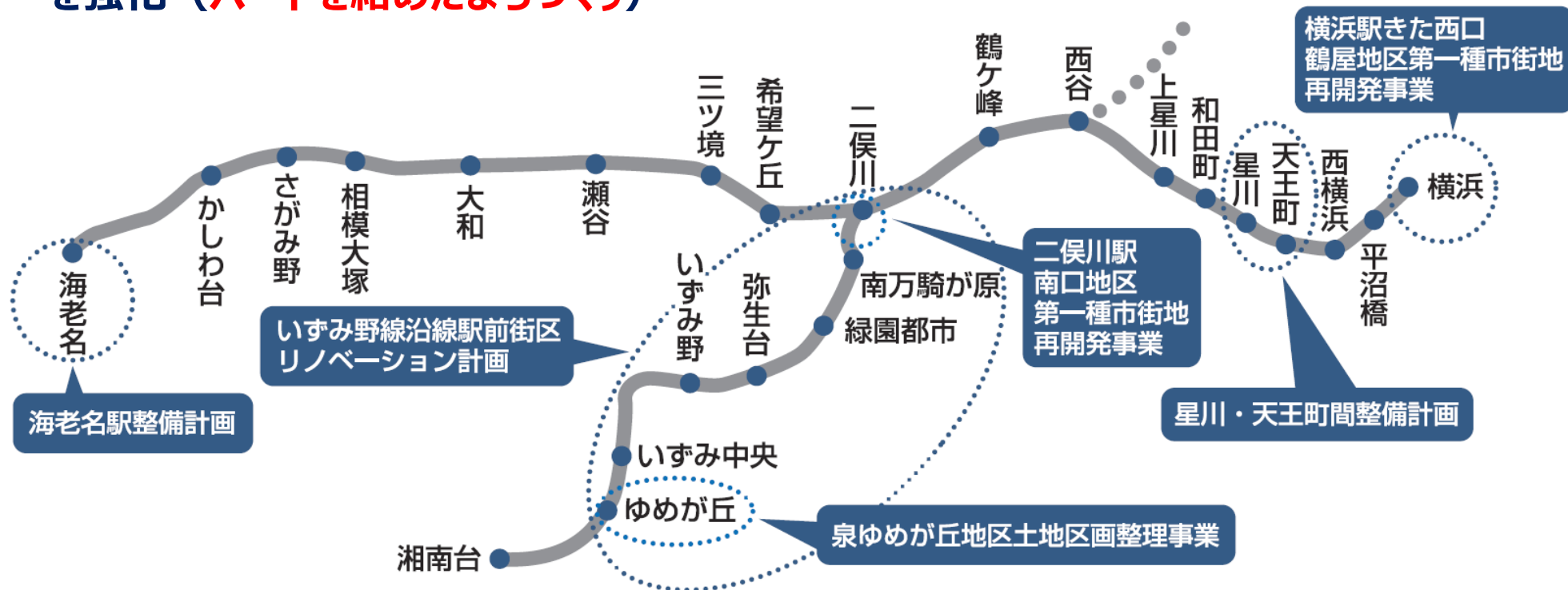


「相鉄グループ長期ビジョン“Vision2030”及び中期経営計画(2022年度～2024年度)」2021年11月25日開示資料より

相鉄グループの成長戦略

- ① 魅力ある沿線の創造によるブランド力向上
- ② ブランド力を活かした事業領域拡大

「魅力ある沿線」の創造に向け、6つの重点プロジェクト（鶴屋町、星川・天王町、二俣川駅南口、いずみ野線沿線駅前街区、ゆめが丘、海老名駅）を指定し、開発を強化（ハードを絡めたまちづくり）



■ 二俣川駅前再開発事業

二俣川駅改良事業

二俣川駅前再開発事業



©2016 二俣川駅南口地区市街地再開発組合

- 施行地区面積…約1.9ha
- 施設概要…<延べ面積> 約98,360㎡
 - <用途> 共同住宅(421戸)・商業・オフィス・公益施設・交通広場
 - <高さ> 約99.5m(29階建) <竣工> 2018年3月



■ いずみ野線リノベーション事業

- ・ 昭和51年に開業したいずみ野線第1期区間（二俣川～いずみ野）の各駅前について、駅前の二次開発を推進。
- ・ このうち、南万騎が原・弥生台については住居機能を新たに設け、人口の流動を図っている。



いずみ野駅前（商業）



南万騎が原駅前（商業・住宅）



弥生台駅前（商業・住宅）

■ 海老名駅整備事業

- ・海老名駅西口は、区画整理事業により、商業・ビジネス・住宅地からなる、広域的かつ重層的な進化と発展を実現する拠点として、海老名駅の東西地区を一体化した中心市街地として誕生。
- ・「三井ショッピングパーク ららぽーと海老名」が2015年10月グランドオープン。
- ・現在、相鉄線海老名駅改良工事を実施中。



出典：海老名駅西口土地区画整理組合ホームページ

【グレースィアタワーズ海老名】
25階建 総戸数/477戸
(ウエスト棟238戸/イースト棟239戸)

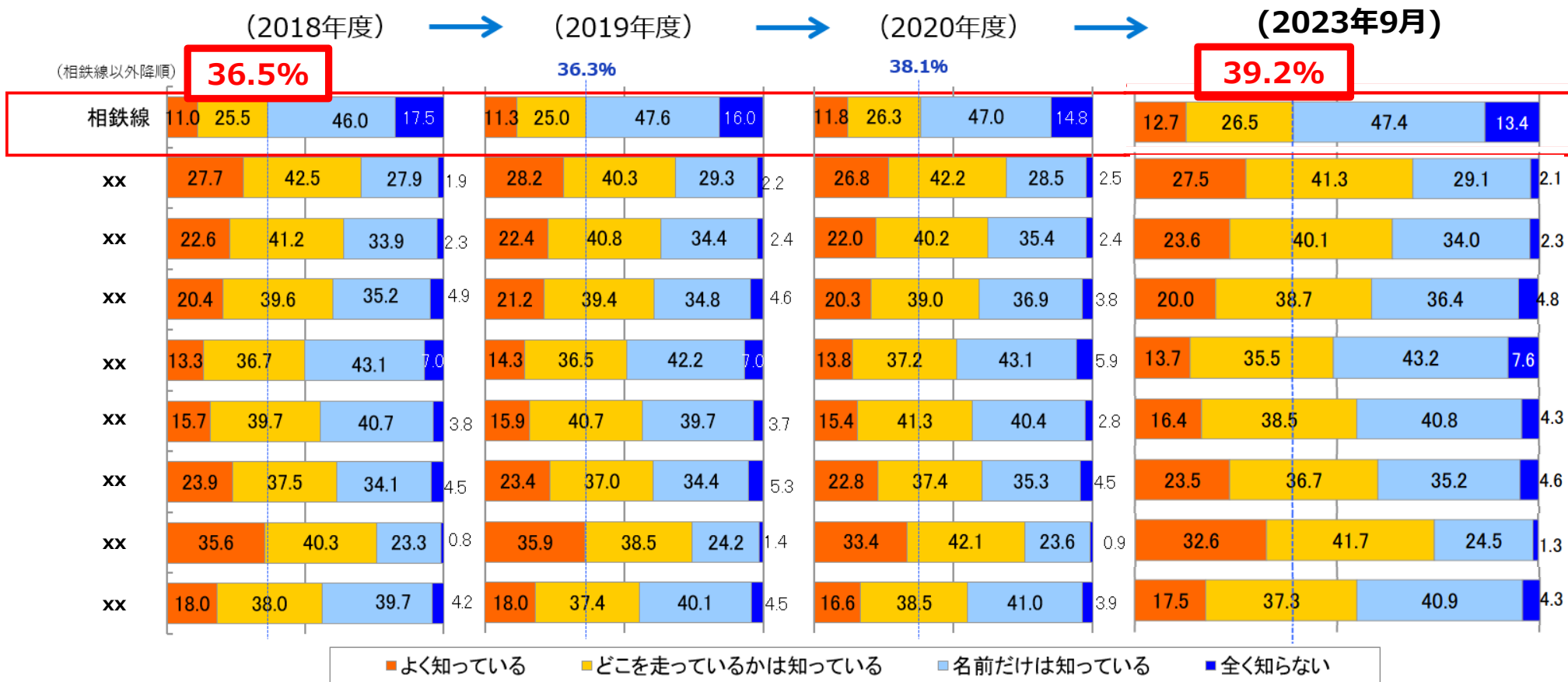
【グレースィア海老名】
総戸数/115戸



2018年度【JR相互直通前】と2023年9月【JR・東急との相互直通後】の各路線の認知度

JR・東急との相互直通運転前後の認知度を比較すると、**36.5% → 39.2%** と上昇。

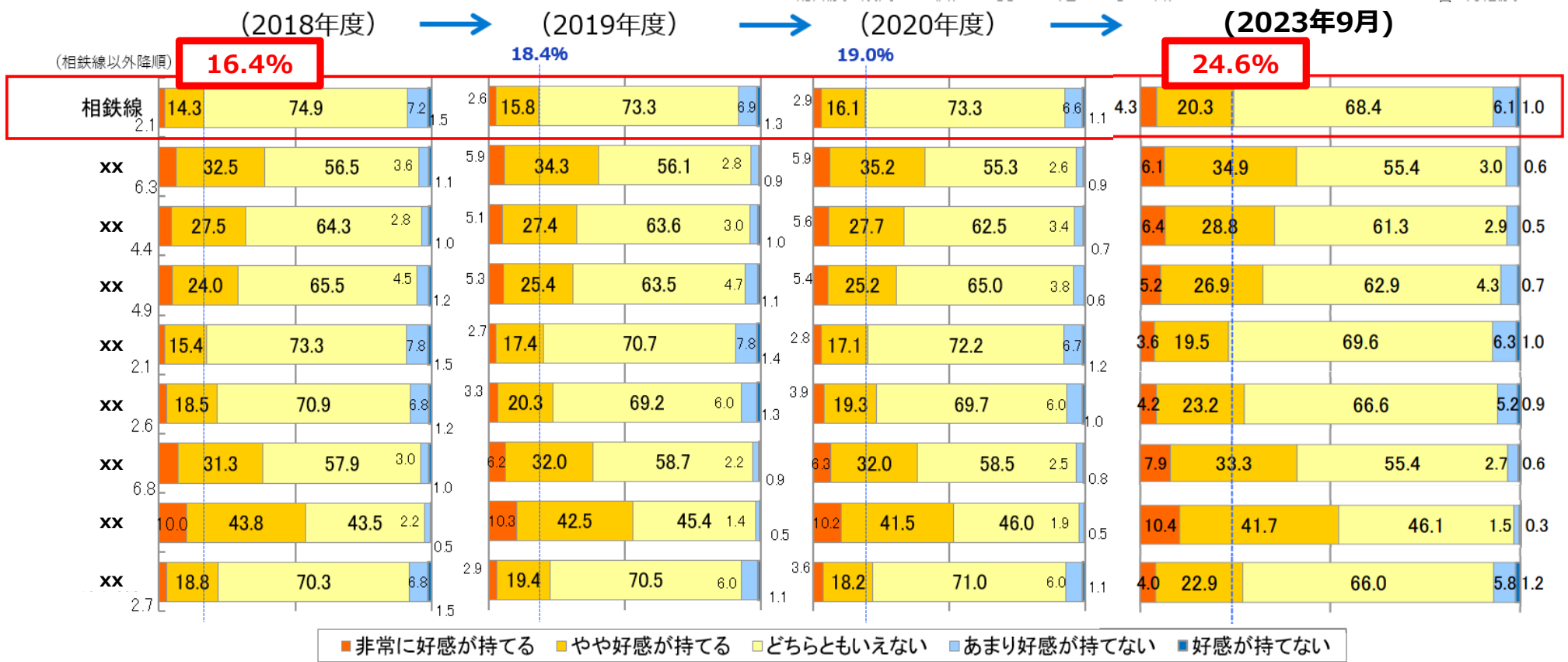
※東京都、神奈川県の合計



【出典】 2023年9月 相鉄線認知度・好意度調査

2018年度【JR相互直通前】と2023年9月【JR・東急との相互直通後】の各路線の好意度

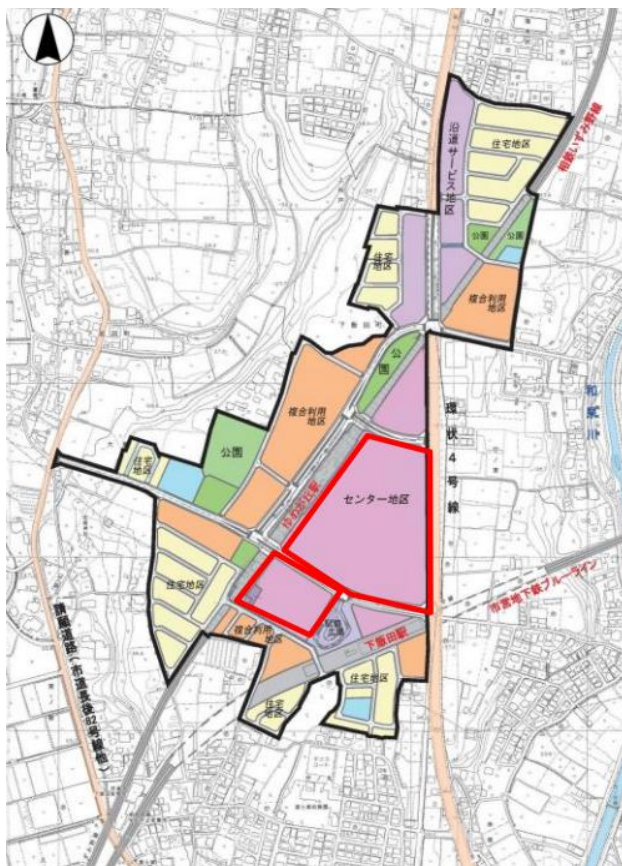
JR・東急との相互直通運転前後の好意度を比較すると、**16.4% → 24.6%** と上昇。



【出典】 2023年9月 相鉄線認知度・好意度調査

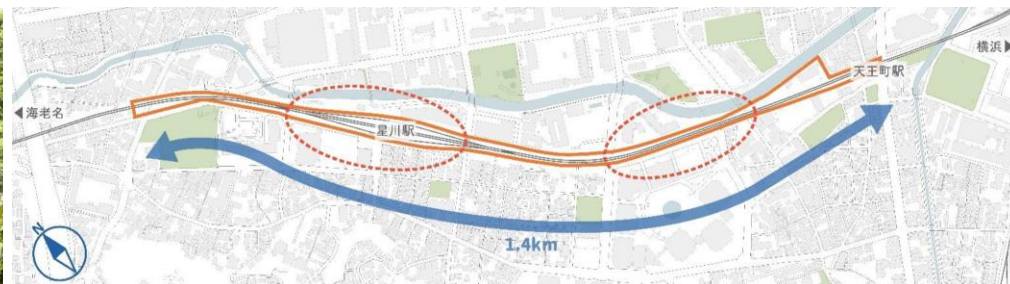
■ ゆめが丘駅前開発（開発中）

- ・相鉄線ゆめが丘駅、横浜市営地下鉄下飯田駅の2駅利用可。
- ・土地区画整理手法により、新たな駅前拠点市街地として、計画的なまちづくりを推進。
- ・ゆめが丘駅周辺の約23万㎡の開発地区に、大規模集客施設や約600戸の集合住宅などを建設予定。
- ・事業主体は、泉ゆめが丘土地区画整理組合。相鉄グループが同組合の事務局を担当。



■ 星川天王町間整備計画 (開発中)

- ・区間内9か所ある踏切の全てを除却し、踏切による交通渋滞を解消(9箇所の踏切のうち、7箇所を立体化(2箇所を廃止))
- ・「駅周辺と高架下」を中心として、分断されていた地区の南北一体化、にぎわいと交流を創出するまちづくりを推進



星川駅部で、食物販店およびスーパーマーケット・カフェなど暮らしを支える拠点を展開。天王町駅西側エリアでは、コミュニティビルダーや「変化を楽しむ人」が生活を営みながら活動し、地域の交流イベントを開催するなど、まちに変化を与え、新しい生き方を提案していく場を創出。

「星天 qlay (ホシテンクレイ)」



- ・“「変化を楽しむ人」がつながる 生きかたを、遊ぶまち”として、ウィズコロナ・アフターコロナなどの社会環境の変化を踏まえ、地域の皆さまとクリエイティブな人材とのつながりにより、新たなまちの魅力を創出し、まちの活力を高めることをコンセプトにしています。
- ・施設名称は、「星天 qlay (ホシテンクレイ)」としました。従来の価値観から脱し、まだ見ぬ一つ先の未来、遊びを目指し、どこまでも自由な創造性がうまれていくように思いを込めています。



3. ③沿線開発戦略（6大プロジェクト：鶴屋地区再開発）

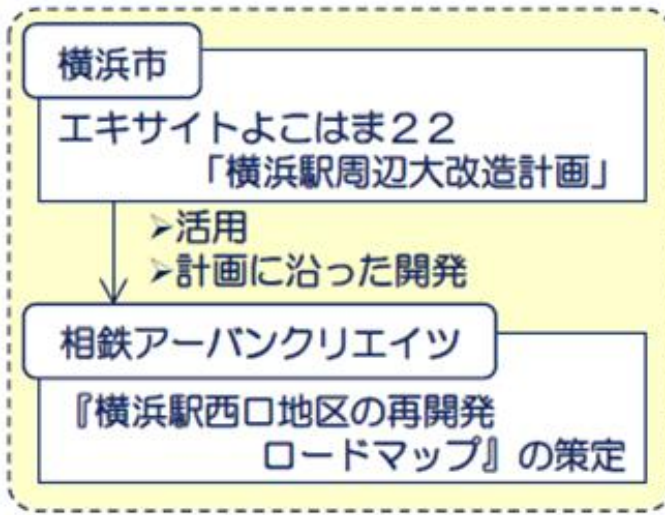
■ 横浜駅きた西口鶴屋地区再開発事業（開発中）

- ・相鉄グループの重要拠点である横浜駅西口の価値向上、魅力付けに寄与。
- ・国家戦略住宅整備事業として全国初の承認案件。国家戦略特区特別区域会議で本計画素案が承認され、容積率も500%⇒850%に緩和。

✓ 地上43階建の超高層ビル…2024年3月竣工予定
 国家戦略住宅整備事業としてグローバル企業の就業者等の生活支援に必要な機能を併設した住宅を整備

42階	グローバルスカイcommons（多目的スペース）
13～41階	住宅（459戸予定）
6～12階	ホテルおよびサービスアパートメント（約220室）
5階	住宅共用部
4階	ホテルロビー
1～4階	商業施設 3階 多言語対応の医療・子育て支援施設等 1階・2階の一部、住宅エントランス

THE YOKOHAMA FRONT / ザヨコハマフロント



➤ エキサイトよこはま22 (横浜駅周辺大改造計画)

- 横浜駅周辺地区における「国際都市横浜の玄関口としてふさわしいまちづくり」の指針
- 横浜市などの行政と地元企業などが連携して策定



➤ 横浜駅西口における相鉄グループ保有不動産

- 横浜駅西口に多くの不動産を保有
- 「エキサイトよこはま22」等の上位計画に基づくインフラ整備や周辺地区の再開発の進捗と連携し、新たな客層を呼び込む開発や方策を検討

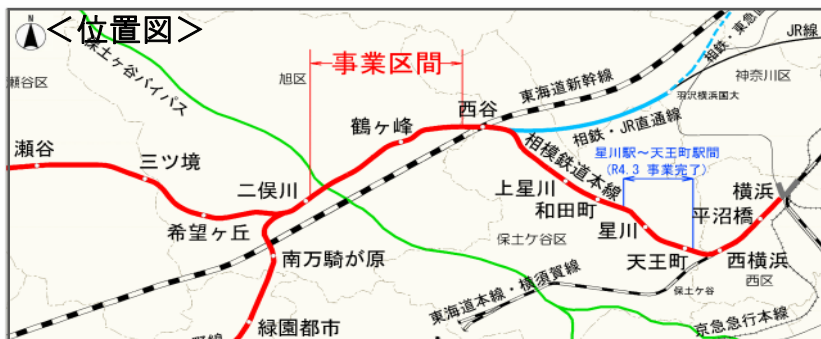


横浜駅西口の魅力向上



■ 鶴ヶ峰駅付近連続立体交差事業

現在まで調査・設計、都市計画や環境影響評価などの手続を進め、横浜市が事業認可を取得。今後は、事業の進捗にあわせ、説明会等を実施していく予定で、2022年度下期より着工。工事期間は11年程度を想定し、2033年度に完成を予定。



1. はじめに（相鉄グループについて）

2. 相鉄グループを取り巻く環境【課題認識】

3. 課題解決に向けた対策

① 都心への利便性向上

- ・ JR・東急との相互直通運転開始

② ブランド戦略

- ・ デザインアッププロジェクト
- ・ 名店プロジェクト

③ 沿線開発戦略

- ・ 6大プロジェクト（開発済・開発中・その先）
- ・ 公民学連携

④ 目指す沿線の理想像

- ・ SDGsへの取り組み
- ・ 次の時代に向けた取り組み



4. 最後に

3. ③沿線開発戦略（公民学連携の取り組み）



2016年（平成28年）6月1日
 国立大学法人横浜国立大学
 フェリス女学院大学
 横浜市
 相鉄ホールディングス株式会社

「相鉄いずみ野線沿線 環境未来都市」の取り組みとして、
「次代のまちづくり」の推進に係る四者連携覚書を
 横浜国立大学・フェリス女学院大学・横浜市・相鉄ホールディングスで締結しました。

このたび、取り組み内容を広げ、地域課題の解決を公・民・学が連携協働してさらに進めるため、国立大学法人横浜国立大学（横浜市保土ヶ谷区、学長・長谷部勇一）、フェリス女学院大学（横浜市泉区、学長・秋田陽）、横浜市及び相鉄ホールディングス㈱（横浜市西区、社長・林英一）は、「相鉄いずみ野線沿線における『次代のまちづくり』の推進に係る四者連携覚書」を2016年（平成28年）6月1日に締結しました。

この締結により、4者が相互連携し組織として対応していく体制が整い、それぞれの有する人的、物的資源及び知識などを活用し、引き続き、沿線における地域住民の高齢化、若年層の流出、住宅や各種施設の老朽化等、今後想定されるさまざまな課題の解決に向けて、郊外住宅地における多様な年齢層にとって住みやすく、環境に配慮したまちづくりを推進していきます。また、教育・研究での還元を通じて社会に貢献していきます。

連携取り組み事項

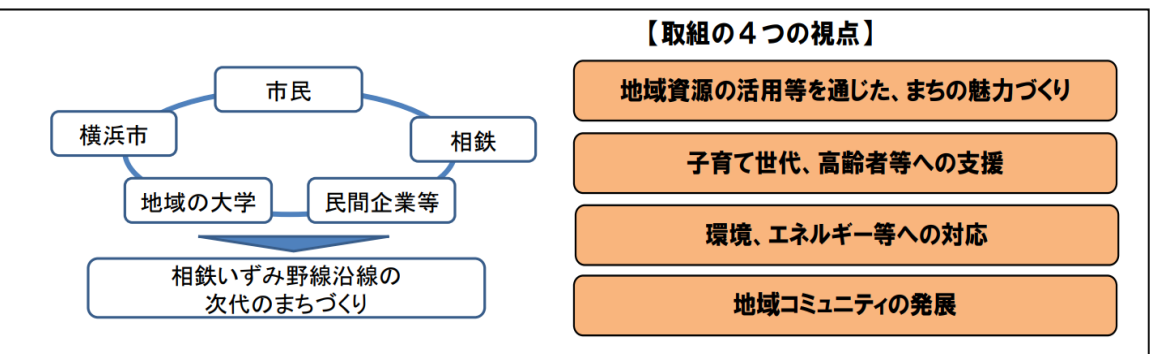
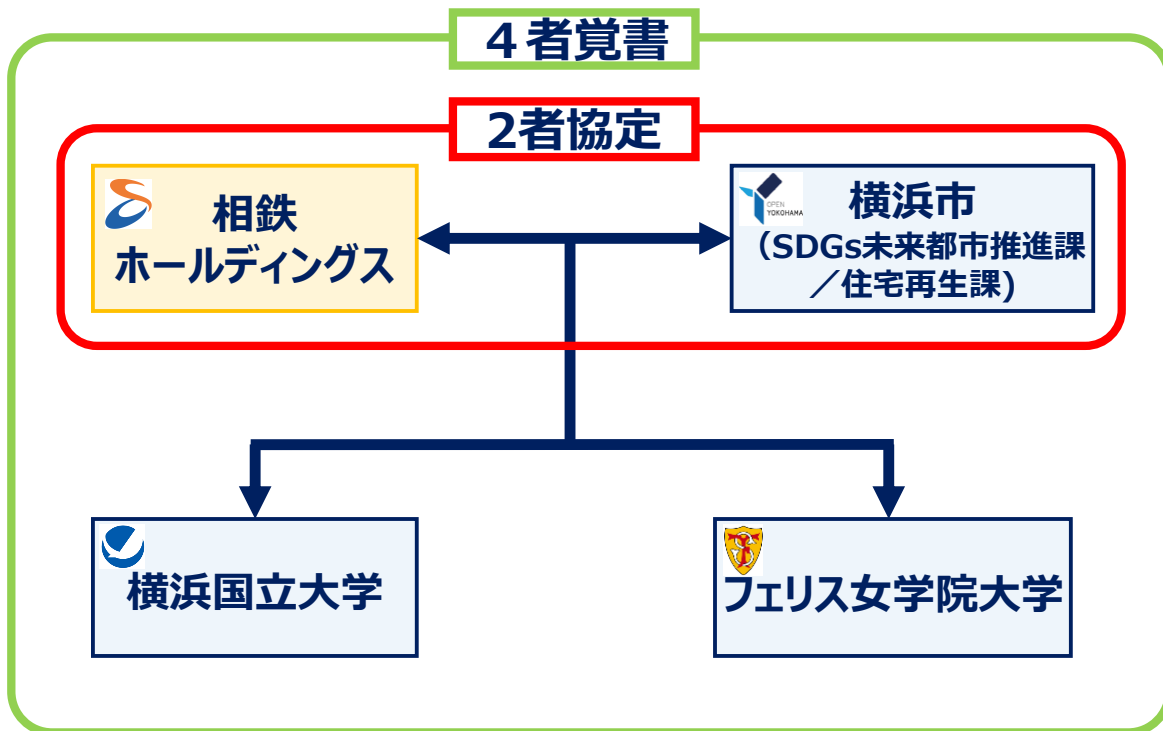
- (1) 地域資源の活用等を通じた、まちの魅力づくりに関する事項
- (2) 子育て世代、高齢者等への支援に関する事項
- (3) 環境、エネルギー等に関する事項
- (4) 地域コミュニティの発展に関する事項
- (5) その他地域の課題解決に資する事項



横浜市は、環境未来都市として、環境問題や超高齢化への対応などさまざまな社会的課題に取り組んでいます。2013年度（平成25年度）から「持続可能な住宅モデルプロジェクト」を、市内4カ所のモデル地区で、民間事業者（鉄道事業者、開発事業者）や大学等幅広い主体と連携し、住み慣れた身近な地域で、誰もが安心して暮らし続けられるように、生活圏の拠点となる駅周辺等に、住民の生活を支えるために必要な機能を集積し、郊外の住宅地の住環境を維持し拠点駅との交通を確保するなど、市民生活を支えるコンパクトな住宅地の形成を進めています。

「相鉄いずみ野線沿線地域」は、そのモデル地区の一つとして、横浜市と相鉄ホールディングス㈱による、「相鉄いずみ野線沿線における『次代のまちづくり』の推進に係る包括連携協定」を2013年（平成25年）に締結し、沿線に存在する豊かな自然環境や人的資源、低未利用地等の地域資源を活用した、「環境に配慮したまちづくり」多様な年齢層にとって住みやすいまちづくりを推進してきました。

今般、上記横浜市と相鉄ホールディングス㈱の2者に加え、横浜国立大学及びフェリス女学院大学の参画を得て4者にて連携し、取り組みを推進していくこととなりました。



横浜市・相鉄との2者協定の取り組みをベースに、2016年6月1日付で4者連携の覚書が締結され、その後3～4年更新で継続中。

みらいに向けた 6つのまちのイメージ

1

多世代

多世代が交流できる新しいまちへ

若年層の流入を促す多世代近居や、住み替えやシェアハウスの推進による世代間の交流や支え合い、老朽化した施設やインフラの再生などにより多世代が交流できるまちを目指します。



南方騎が原駅前周辺リノベーションプロジェクト

2

働く

多様な人材にとって
働きやすいまちへ

職住近接を実現し、多様な人材が働きやすい環境を目指すとともに、若者から高齢者まで様々な世代が気軽に参加できる新しい地域経済モデルを実践するまちを目指します。



いずみ野マルシェ(第5回)

3

交流

交流を通して、地域貢献に
つながる取組が生まれるまちへ

スポーツや文化活動、農の取組などを充実させ、人が自然と集まり憩う場をつくることで、地域貢献につながる取組が自然に生まれるまちを目指します。



街カフェ(第3回)

4

学び・子育て

地域の**学びと子育て**ができる
まちへ

地域の人材や資源を活用した学びあえる場を創出するとともに、地域と連携して共働きでも安心安全に子育てができるまちを目指します。



I love Ryokuenマップ

5

健康

誰もが日常の生活の中から
健康づくりができるまちへ

多様な主体がまちぐるみで取り組み、健康づくりの活動を実現していくことで、誰もが日常の生活の中から健康づくりができるまちを目指します。



貯筋運動

6

仕組み

暮らしを支える**持続可能な
仕組み**があるまちへ

地域経営の担い手となりまちづくりの主体となる組織の充実や、地域の医療・介護資源と連携した取組、環境と防災への意識を高める地域マネジメントなど、暮らしを支える様々な持続可能な仕組みがあるまちを目指します。



えきばた会議

3. ③沿線開発戦略（次代のまちづくり足許10年の各駅別効果検証）

駅	成果	6つのまちのイメージ 関連取組実施有無						課題
		多世代	学び・子育て	健康	仕組み	働く	交流	
二俣川	<ul style="list-style-type: none"> 商業施設・タワマンの整備により、職住近接が目指され、「働く」「交流」のイメージに貢献 地域資源の活用が取組ができた(商店街、高校連携) 	○	○	-	-	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源の活用(こども自然公園など) コワーキングスペースを活用した学びに関する取組(生涯教育など)
南万騎が原	<ul style="list-style-type: none"> 住宅供給および「みなまきラボ」を活かし、まちづくり人材の発掘・育成に成功。 国土交通省「スマートウェルネス住宅等推進モデル事業」に採択、よこはま多世代・地域交流型住宅認定取得(民間第1号) 	○	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 発掘したまちづくり人材により活躍してもらうためのサポート 拠点機能や集客機能を活かし、個人以外にも企業・団体と連携した継続的な取組の推進・仕組みづくり
緑園都市	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な地域住民と連携したマルシェ等の経済的な地域活性化や、健康・ラストワンマイルに関する取組ができた 企業・大学や住民コミュニティと連携した取組ができた 	○	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 住民コミュニティとの接点を活用し、地域課題解決型のプロジェクトの仕組み化(実証実験止まりにしない) 街カフェ・緑園街マルシェのより良い仕組み検討 フェリス大との連携強化(地域振興・生涯教育等のキーワード)
弥生台	<ul style="list-style-type: none"> 国際親善病院・クリニックを中心とした「健康」というコンセプトで取組実施 リノベで「交流」、TRY BOXで「働く」の取組実施、賃貸マンション開発による「多世代」 	○	-	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 核となる人・団体の発掘 「健康」をコンセプトに、企業を巻き込んだより大規模な取組
いずみ野	<ul style="list-style-type: none"> 継続的なマルシェの他、地産地消や農に関する取組も実施できた 地価上昇率は沿線内3位 	○	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 農や地域資源を生かした取組の発展 マルシェのより良い仕組み検討
いずみ中央	<ul style="list-style-type: none"> みんなの絵本のおうちが「多世代」「学び・子育て」「仕組み」「交流」に貢献 駅前広場・地蔵原の水辺スペースを生かした取組 	○	○	-	○	-	○	<ul style="list-style-type: none"> 区役所や公会堂等、行政施設立地を生かした連携、取組 地蔵原の水辺を生かした取組の検討
ゆめが丘	<ul style="list-style-type: none"> IoTスマートホーム実証実験の実施によりFCPの取組を住民に周知できた 区画整理事業の実施による基盤整備 	-	-	○	-	-	○	<ul style="list-style-type: none"> ゆめが丘開発への他地域の成果の展開

3. ③沿線開発戦略 (次代のまちづくりにおけるテーマの見直し)

これまでの6つのテーマ	相鉄沿線の理想像	ターンテーブル	横浜市住生活マスタープラン	いずみ野線の資産・ポテンシャル・方向性	街づくりの潮流	変更すべき点	
	人生100年時代を「生き生きと」過ごせる沿線			自然を身近に感じながら、心身共に健やかな毎日を豊かな環境で過ごす「グリーン&ウェルネスライフ」	テレワーク カーボンニュートラル スマートシティ		
交流 (交流を通して、地域貢献につながる取組が生まれるまちへ)	「多様な価値観」X「ボーダーレス」 (イノベティブ)	イノベティブ	<p>目標1-2：市民主体のまちづくり活動の支援、企業や大学を巻き込んだまちづくりを推進</p> <p>目標1-2：AI, IoT等を活用した地域の課題解決、地域の魅力を伝える情報発信、エリアマネジメントや市民との新たな協働の取組など、これまで蓄積してきた成果を生かし、地域活性化の取組を沿線や他地域へ展開。</p>	<p>著名大学等の教育機関 (連携機会など) ・大学との連携を通じた、学生との「地縁」づくり ・教育環境の充実をPR</p> <p>住民意識の高さ (シビックプライド) ・住民参加による活動サポート</p>	<p>地域で過ごす時間が増えることによる地域への関心</p> <p>・実証実験フィールド</p>	<p>交流 (交流を通して、地域貢献やイノベーションにつながる取組が生まれるまちへ)</p>	
健康 (誰もが日常の中から健康づくりができる町へ) 働く (多様な人材にとって働きやすいまちへ)	「サステナブル」な暮らしの提供 (ウェルビーイング)	健康・ヘルスケア		<p>駅周辺の開発・再開発事業 (新たな拠点開発による暮らし創出の機会等) ・生活拠点整備によるトライアル層の転入促進 ・住/商/働/遊が揃う新しい生活拠点としての整備</p>	<p>在宅勤務でも動く・運動するための仕掛け</p> <p>サテライトオフィスのニーズの高まり</p>	<p>健康 (誰もが日常の中から健康づくりができる町へ)</p>	
多世代 (多世代が交流できる新しいまちへ)		空き家利活用 (住・働・育)	<p>転入促進 ・ブランディング、情報発信 ・転入者サポート (地域コミュニティ情報等)</p>	<p>目標1-1：働く場や買物などの生活利便施設、コミュニティをはくむ地域の居場所など、「住む」以外の多様な機能を誘導。</p>	<p>・医療・健康分野でのデータ活用によるサービス向上</p> <p>・リモートワーク環境の充実</p>	<p>働く (多様な人材にとって働きやすいまちへ)</p>	
学び・子育て (地域の学びと子育てができるまちへ)		エンタメ	<p>目標1-1：生活利便施設や最寄り駅などへの円滑な移動手段の導入に向けた、地域の主体的な取組を支援。</p>	<p>目標1-1：老朽化した住宅の建て替えを促進し、多様な住まい方や働き方・学び方が可能となるゆとりある住まいや安全安心な住環境を創出。</p>	<p>老朽化した既存ストック (リノベーションや新規事業による新たな活動の場と話題作りの機会) ・ソフト中心に、利活用プランを策定 ・施設のリノベーションもあわせて実施</p> <p>戸建て中心でゆとりある住環境 ・若い層が住みやすい住宅ストックの供給 ・ご近所を反映できるリノベーション・住宅の提案 ・坂道が多いエリアの回遊性を高める</p>	<p>「多世代が交流」だと「交流」と重なるので「便利」に暮らしせるまち、とする。</p>	<p>多世代 (多世代が便利に暮らしせるまちへ)</p>
	「サステナブル」な街づくり	環境・エネルギー	<p>満足度向上 ・生活者への情報発信 ・安心情報サービス</p>	<p>目標1-1：身近な農や緑、水辺、歴史など、横浜ならではの地域の資源や自然の恵みを生かしたまちづくりを検討。</p>	<p>子ども自然公園などの豊かな自然環境 ・子ども自然公園の滞在性・利用性向上 ・「学び/体験」健康」場としての活用とPR</p>	<p>・防犯、見守り (AIカメラなどによる)</p> <p>・モビリティ・物流 (自動運転、シェアリングなど)</p>	<p>新たに追加</p>
	理想像のまちを支える土台 (コミュニティ)	食・農業	<p>目標1-1：身近な農や緑、水辺、歴史など、横浜ならではの地域の資源や自然の恵みを生かしたまちづくりを検討。</p>	<p>目標1-1：老朽化した住宅の建て替えを促進し、多様な住まい方や働き方・学び方が可能となるゆとりある住まいや安全安心な住環境を創出。</p>	<p>・カーボンニュートラルの取り組み</p> <p>・エネルギー管理システム、エネルギーとモビリティの連携など</p>	<p>環境・脱炭素</p>	
交流 (交流を通して、地域貢献につながる取組が生まれるまちへ)	理想像のまちを支える土台 (コミュニティ)	防災・防犯	<p>目標1-2：地域の実情や住民の意向等を踏まえ、建築協定等の街のルールの見直しを支援。</p>	<p>目標1-2：多様な主体と連携した取組を通じて、誰もが住み慣れた地域に安心して住み続けられる郊外住宅地の再生。</p>	<p>・多少会社から遠くても、自然環境が豊かな土地での子育てをする嗜好の高まり</p>		
仕組み (暮らしを支える持続可能な仕組みがあるまちへ)			<p>目標1-2：AI, IoT等を活用した地域の課題解決、地域の魅力を伝える情報発信、エリアマネジメントや市民との新たな協働の取組など、これまで蓄積してきた成果を生かし、地域活性化の取組を沿線や他地域へ展開。</p>	<p>新たな住民活動の芽 ・年代問わず使える「活動の場」の拡充 ・多様な「居場所」の拡充</p>	<p>・テレワークで時間に余裕ができた人 (かつ運動不足の方) にスポーツや農を通じて交流</p> <p>経営能力がある企業人がタテ方開催のイベントに参画できる可能性</p>	<p>・コミュニティ活動、エリア内へのデジタル活用</p>	<p>交流 (交流を通して地域貢献やイノベーションにつながる取組が生まれるまちへ)</p> <p>仕組み (AI, IoT等を活用しつつ、暮らしを支える持続可能な仕組みがあるまちへ)</p>
				<p>・テレワークにより、介護・育児に掛けける時間が増え、多世代交流につながる。 ・コミュニティ形成・交流の空間づくりを行う。</p>	<p>・データ連携基盤</p>	<p>防災・防犯</p>	

1. はじめに（相鉄グループについて）
2. 相鉄グループを取り巻く環境【課題認識】

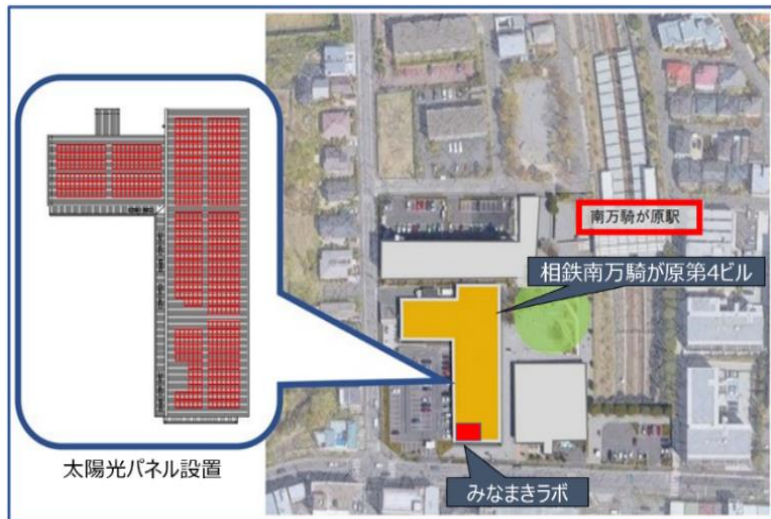
3. 課題解決に向けた対策

- ① 都心への利便性向上
 - ・ JR・東急との相互直通運転開始
- ② ブランド戦略
 - ・ デザインアッププロジェクト
 - ・ 名店プロジェクト
- ③ 沿線開発戦略
 - ・ 6大プロジェクト（開発済・開発中・その先）
 - ・ 公民学連携
- ④ 目指す沿線の理想像
 - ・ SDGsへの取り組み
 - ・ 次の時代に向けた取り組み



4. 最後に

■ 南万騎が原太陽光発電事業



- 南万騎が原駅前の商業ビル屋上に太陽光パネルを設置。エネルギーの地産地消の取り組みとして発電した電気は全て商業ビル内で使用。
- エリマネ拠点「みなまきラボ」内に、ポータブル蓄電池を設置。有事の際には地域住民に開放し、携帯などの充電に使っていただくことを想定。

【太陽光発電設備(発電容量192.45kW)】

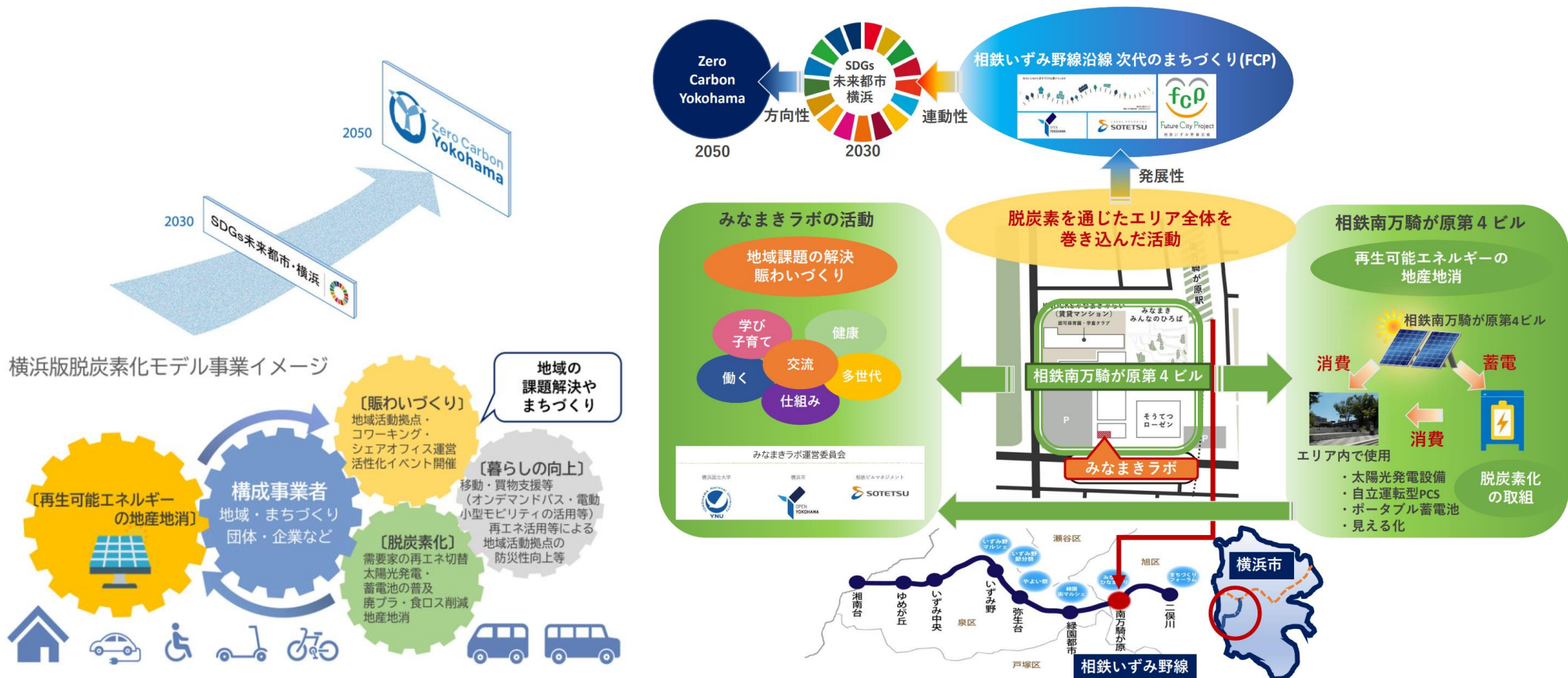


【ポータブル蓄電池】



3. ④ 目指す沿線の理想像 (SDGsへの取り組み: 脱炭素化モデル事業) と き め き と や す ら ぎ を つ な ぐ SOTETSU

- ・ 南万騎が原駅前商業施設に太陽光発電設備・ポータブル蓄電池を設置。
- ・ 売電費の一部を、みなまきラボ(地域交流拠点)やイベントなど地域活動に充て、持続可能な仕組みづくりを推進。
- ・ 地域への啓蒙活動も実施し、横浜市全体での脱炭素化を促進させる。



※補助金対象部分の売電収益は、みなまきラボやFCPなどの地域課題解決に資する取組みに活用しますが、本資料はみなまきラボに充てられた場合を記載しています。

相鉄南万騎が原第4ビル 自家消費型 太陽光発電システムの導入

相鉄南万騎が原第4ビル屋根上で発電した再生可能エネルギー電力(再エネ電力)を消費することでCO2排出量の削減に寄与し、脱炭素社会の実現に取り組んでいきます。



再生可能エネルギー電力の地産地消

再生可能エネルギー電力の消費 ← 地産地消 → 再生可能エネルギーによる発電

■ 年間発電電力量 約180,000kWh
(施設使用電力の 40.0%相当)



一般的な家庭で使用する年間電力量約32世帯分になります。 ※1

■ 二酸化炭素(CO₂)削減量 約76.0t



年間で杉の木約5400本分の二酸化炭素(CO₂)排出削減効果があります。 ※2

※1 一般家庭(4人家族)の消費電力量を年間5650kWhとして計算(太陽光発電協会 表示ガイドライン2023より)

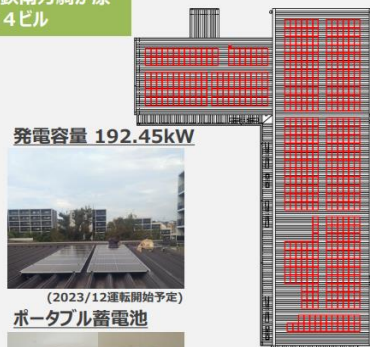
※2 杉の木1本あたりのCO₂吸収量を14kg-CO₂/年として計算(林野庁より)

■ 災害時対策(BCP)



ポータブル蓄電池に電力を貯めておく事で、停電・災害時等に使用できます。スマートフォン約200台を充電が可能。 × 200台 (15W充電 約1時間)

相鉄南万騎が原第4ビル



相鉄グループ・横浜市の取り組み

相鉄いずみ野線沿線は「脱炭素化」と「地域課題の解決・賑わいづくり」を一体的に推進する横浜版脱炭素化モデル事業を実施しており、横浜市の掲げる「SDGs未来都市」「Zero Carbon Yokohama」の実現に貢献する取り組みを続けていきます。



SDGs未来都市・横浜

INTELLECT 株式会社インテレクト

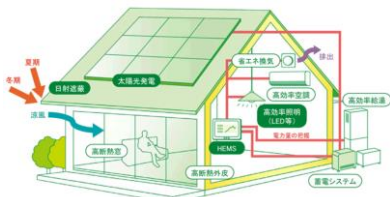


3. ④ 目指す沿線の理想像 (SDGsへの取り組み：重点対策加速化事業)

相鉄グループとして、ゆめが丘を始めとしたいずみ野線沿線の施設屋上への太陽光設置や、ZEH・ZEH-M、高効率設備などを横浜市と共同でエントリーし、2023年4月に採択。交付金をうまく活用しつつ、今後も脱炭素化に向けた取組みを推進していく。



『太陽光発電設備』



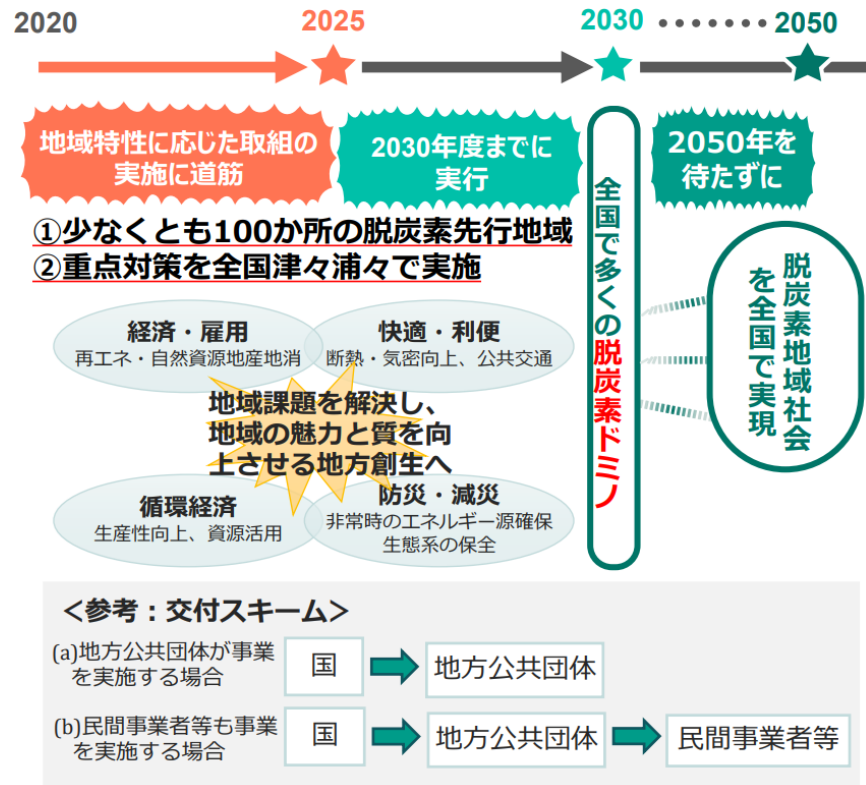
『ZEH』



『ZEH-M』

(住棟全体で正味100%以上省エネ)

重点対策加速化事業
<p>○再エネ発電設備を一定以上導入すること (都道府県・指定都市・中核市・施行時特別市： 1MW以上、その他の市町村：0.5MW以上)</p>
<p>①～⑤のうち2つ以上を実施 (①又は②は必須)</p> <p>①屋根置きなど自家消費型の太陽光発電 (公共施設への太陽光発電設備導入はPPA等に限る) (例：住宅の屋根等に自家消費型太陽光発電設備を設置する事業)</p> <p>②地域共生・地域裨益型再エネの立地 (例：未利用地、ため池、廃棄物最終処分場等を活用し、再エネ設備を設置する事業)</p> <p>③業務ビル等における徹底した省エネと改修時等のZEB化誘導 (例：新築・改修予定の業務ビル等において省エネ設備を大規模に導入する事業)</p> <p>④住宅・建築物の省エネ性能等の向上 (例：ZEH、ZEH+、既築住宅改修補助事業)</p> <p>⑤ゼロカーボン・ドライブ ※2 (例：地域住民のEV購入支援事業、EV公用車を活用したカーシェアリング事業) ※2 再エネとセットでEV等を導入する場合に限る</p>
<p>(①⑤は国の目標を上回る導入量、④は国の基準を上回る要件とする事業の場合、それぞれ単独実施を可とする。)</p>
<p>2 / 3 ~ 1 / 3、定額</p>



3. ④ 目指す沿線の理想像 (SDGsへの取り組み : ゆめが丘駅前開発) ときめきとやすらぎをつなぐ SOTETSU

ゆめが丘の大規模集客施設は「環境・脱炭素」を意識して開発中。サステナブルを体感できる街づくりとして、生ごみや廃油、井水・中水の活用を検討しており、また、使用する電力は、クリーンエネルギー100% (1.6MWの太陽光発電+非化石証書) を目指す。



大規模集客施設のコネプト

商業施設に集客するだけでなく、地域の「HUB」となり、豊かな地域資源を中心となって発信する

Wellbeing
SDGs 楽しさ・喜び 便利さ

「食」の提案を通して、サステナブルを体感できるまち



3. ④ 目指す沿線の理想像 (SDGsへの取り組み : ゆめが丘駅前開発) SOTETSU

ときめきとやすらぎをつなぐ

- ・ 住宅共通のコンセプトとしても、「環境・脱炭素」・「子育て」・「住」（生活利便性）等を意識。
- ・ エリアマネジメントも「環境・脱炭素」・「子育て」を意識。また、仕組み自体も、経済的・人材的に持続可能な仕組みを検討中。

「住宅共通コンセプト」について

なつかしくて(ニューローカルな)、あたらしいヨコハマ
つながり、親しみのある「まち」と「すまい」

自然・里山 NATURE
農業 LOCAL CULTURE
食 NATURAL FOOD

サスティナブル SDGs
(環境配慮・コミュニティ)

子育てしやすい

健康 WELLNESS

便利な暮らし NEW TECHNOLOGY

防災・安全 SAFE

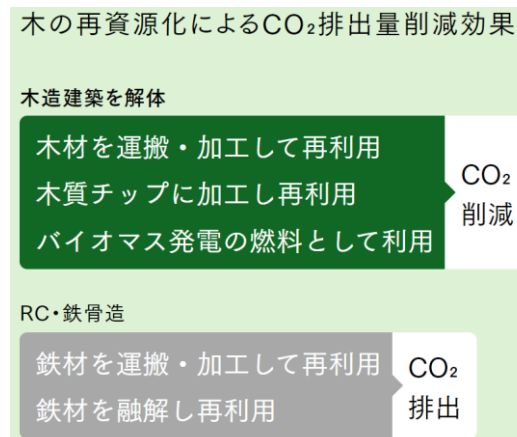
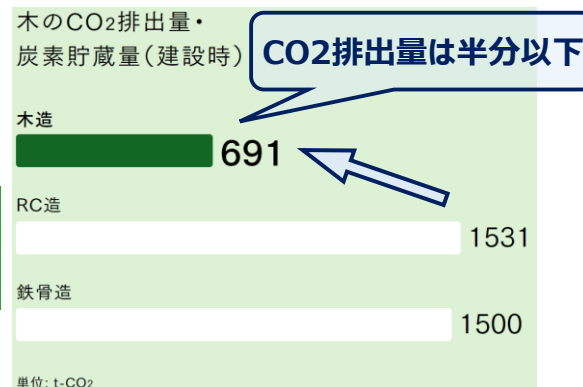
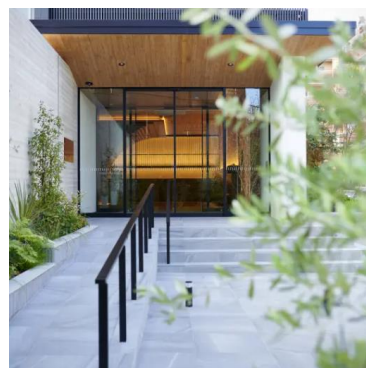
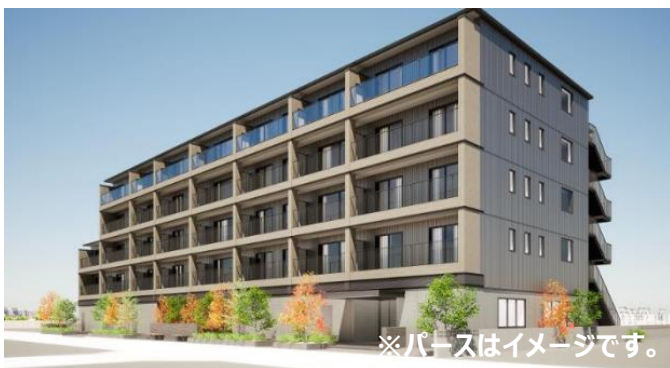
これらの提案(提供価値)が、身近に感じられるまち
これからのライフスタイルのモデルケースとなる「まち」



※現段階での計画であり、将来的に変更となる可能性がある。

■ ゆめが丘木造賃貸マンション (開発中 / 相鉄グループ × 三井ホーム)

- ・ 相鉄グループ初の木造マンション。三井ホーム過去最大で、初の複合用途。
- ・ 国土交通省の「優良木造事業 (令和 4 年度第 II 期募集)」に採択。
- ・ 構造は木造 (一部RC)、建設時のCO2排出量を大幅に削減し、建物に長期間炭素を固定化。構造材の一部には国産材も使い、国内の森林の持続的なサイクルの構築に寄与。
- ・ 一次エネルギー消費量を 20%以上削減し、「ZEH-M Oriented」取得予定。



3. ④ 目指す沿線の理想像 (SDGsへの取り組み：グループ各社の推進)

環境に優しい企業として環境に配慮した事業活動に取り組み、鉄道事業で使用する電力によるCO2排出量を、2030年度までに46%削減（2013年度対比）します。



駅での再生可能エネルギーの取り組み

- 三ツ境駅ホーム屋根上・弥生台駅線路沿いののり面に太陽光発電設備を設置



リサイクルの取り組み

- 横浜ベイシェラトンホテルでは、生ゴミ処理機で堆肥化した肥料で栽培した野菜を購入する「自立循環型食品リサイクルループ」や、シェフたち自らが農業に触れ、食材の安全・大切さを見直す取り組みを実施



再生可能エネルギーの導入促進

- 「アクアdeパワーかながわ」相鉄本社ビルと相鉄南幸第2ビルで使用する電気のCO2排出量ゼロを実現。

場所	電気使用による年間二酸化炭素排出量		削減した二酸化炭素を杉の木に換算した場合
	導入前	導入後	
相鉄本社ビル	約 423 t	0	約 30,200 本分
相鉄南幸第2ビル	約 818 t	0	約 58,400 本分
合計	約 1,241 t	0	約 88,600 本分



- 「はまっこ電気」羽沢横浜国大駅で使用する電気相当量と、横浜ベイシェラトンホテルで使用する電気の一部について、CO2排出量実質ゼロを実現

場所	はまっこ電気使用による年間二酸化炭素削減量	
	削減量	削減した二酸化炭素を杉の木に換算した場合
相鉄線	約 664 トン (羽沢横浜国大駅1駅分相当)	約 47,500 本分
横浜ベイシェラトンホテル& Towers	約 303 トン	約 21,600 本分
合計	約 967 トン	約 69,100 本分

3. ④ 目指す沿線の理想像 (SDGsへの取り組み: グループ各社の推進) OTETSU ときめきとやすらぎをつなぐ

- ・ 車両・駅のLEDを始めとした省エネ化の推進や環境に配慮した車両を導入。
- ・ 移動スーパーによる交通弱者への対応、野菜くずから作った堆肥を使用した野菜の生産、CO2排出の少ない鉄道などの利用を促すパーク&ライド、食品ロス減らすフードドライブなどの取り組みを実施。



PARK & RIDE パーク&ライドサービス

「相鉄ライフミツ橋」「相鉄ライフいずみ野」「リパーク上星川」いずれかの駐車場に駐車し、相鉄線で奥浜駅または二俣川駅へ。ジョイナス奥浜またはジョイナステラス二俣川で1店舗3,000円(税込)以上ご利用のジョイナスポイント会員さまは、当日の駐車料金が0時間まで無料となります。

STEP 1 対象駐車場にクルマを停める

「相鉄ライフミツ橋」「相鉄ライフいずみ野」「リパーク上星川」いずれかの駐車場に駐車し、相鉄線で奥浜駅または二俣川駅へ。
※駐車料金は0時間まで無料。

STEP 3 駐車サービス券を受け取る

ジョイナス提携の有人インフォメーション(1F-B1)またはジョイナステラス二俣川(有人インフォメーション)で当日の駐車券(「シート」会員証ポイントカードまたはアプリの会員証画面)をご提示ください。
当日の駐車料金が消費済みの場合はサービス券をお返しします。

STEP 2 対象施設を利用

JOINUS TERRACE
JOINUS TERRACE
Shopping

ジョイナス提携またはジョイナステラス二俣川にて1店舗3,000円(税込)以上ご利用ください。

※高島屋提携店は対象外です。
※その他、本提携店(提携店)は、提携店ごとの規定となります。
※提携店以外のスーパー・コンビニ等は対象外です。

さらに!
相鉄ライフミツ橋・相鉄ライフいずみ野の駐車サービスと
無料駐車時間がプラス!
※相鉄ライフミツ橋・相鉄ライフいずみ野の駐車サービスと併用してご利用ください。

相鉄ライフミツ橋 100円(税込)以上のご利用で1時間無料、1,000円(税込)以上のご利用で2時間無料
相鉄ライフいずみ野 100円(税込)以上のご利用で1時間無料

※駐車サービス券の領収書は、領収書発行機で発行されますが、当日24時まで最大額が500円となります。
※サービス券は、提携店(提携店)で発行されますが、提携店ごとの規定となります。
※サービス券は、提携店(提携店)で発行されますが、提携店ごとの規定となります。

パーク&ライドサービス



1. はじめに（相鉄グループについて）

2. 相鉄グループを取り巻く環境【課題認識】

3. 課題解決に向けた対策

① 都心への利便性向上

- ・ JR・東急との相互直通運転開始

② ブランド戦略

- ・ デザインアッププロジェクト
- ・ 名店プロジェクト

③ 沿線開発戦略

- ・ 6大プロジェクト（開発済・開発中・その先）
- ・ 公民学連携

④ 目指す沿線の理想像

- ・ SDGsへの取り組み
- ・ 次の時代に向けた取り組み



4. 最後に

アクセラレータープログラムの拡充・活性化

オープンイノベーションによる社会課題の解決や新規事業の創出などを目的とした「相鉄アクセラレータープログラム」を実施。

相鉄グループ経営資源

相鉄グループが展開する
多様な事業の幅広いリソース

スタートアップ企業

・新しいアイデア・発想・テクノロジー
・斬新なアプローチやノウハウ

共創

社会課題の解決/新たなサービスの創出/事業領域の拡大

相鉄グループの事業会社とスタートアップ企業との共創による実証実験を通じ、新たなサービスや事業の検討を進めています。

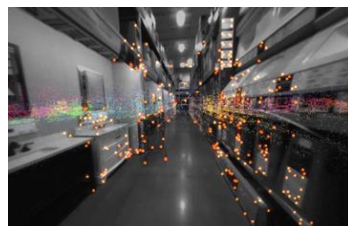
▶ 「透明字幕ディスプレイ」の実証実験を実施

- ・ 期間…2022/7/28～9/26
- ・ 目的…会話を双方向かつ、リアルタイムに字幕表示をする「透明字幕ディスプレイ」を活用し、「すべての人が安心・快適に利用できる意思疎通環境の実現」に向けた実証実験。



▶ その他の取り組み

- ・ ARアプリ「Dive」の活用で、現場情報の共有を容易化し、遠隔接客での業務の効率化や省人化を図る



- ・ デジタルヒューマンの活用、ARによる新たな移動体験の創出で沿線価値向上を図る



3. ④ 目指す沿線の理想像（次の時代に向けた取り組み）

相鉄グループでは、デジタル技術を活用したお客さまサービスの向上と、業務の効率化を推進しています。



今後は各事業でのDX・ICT推進と併せて、
グループ事業基盤の強化に一層注力していく

グループポータルアプリの開発

グループ各社が提供するサービスのほか、MaaSによる移動手段の利便性向上、ヘルスケア・沿線スポット提案など日々の暮らしを便利で豊かにするコンテンツを提供する。

サービスの高度化
“One Stop”

顧客情報をOne IDで管理

新たにグループ共通ポイントを導入し、お客様の利便性向上を図ると共に、お客様の嗜好性を理解して最適なサービスを提供する。

顧客理解の高度化
“One ID”

▶ 大型バスの自動運転に関する共同研究契約を群馬大学と締結し、自動運転「レベル4」の実用化を目指した動きや、遠隔監視・操作による無人運転を日本初の実証実験を実施。



運転席を無人にして行った実証実験



遠隔監視・操作システム



セルフチェックイン・チェックアウト端末



AIインフォメーション



セミセルフレジ



自動清掃ロボット

1. はじめに（相鉄グループについて）

2. 相鉄グループを取り巻く環境【課題認識】

3. 課題解決に向けた対策

① 都心への利便性向上

- ・ JR・東急との相互直通運転開始

② ブランド戦略

- ・ デザインアッププロジェクト
- ・ 名店プロジェクト

③ 沿線開発戦略

- ・ 6大プロジェクト（開発済・開発中・その先）
- ・ 公民学連携

④ 目指す沿線の理想像

- ・ SDGsへの取り組み
- ・ 次の時代に向けた取り組み



4. 最後に

(これまで)

- ・ **都心への利便性向上**（相互直通運転）
- ・ **ブランドアップ**（デザインアップ、名店）
- ・ **沿線開発**（6 大事業）
- ・ **目指す沿線の理想像に向けた推進**（SDGs・次の時代への取組み）

コロナをきっかけに社会の生活様式が大きく変化

(これから)

- ・ DX・ICTの推進、SDGsの取組み、新たな事業領域への拡大など
Vision2030の重点戦略を遂行することで**新たなビジネスモデルを構築**
- ・ **新たなビジネスモデルの一丁目一番地は相鉄沿線**
- ・ **目指す沿線の理想像を実現すべく、公民学が連携するプラットフォーム**
となり、魅力あるまちづくりを推進
- ・ **沿線外での横展開を図り、横浜郊外部の活性化に貢献する**

ご清聴ありがとうございました。

